

古今和漢

本朝畫傳

万寶全書

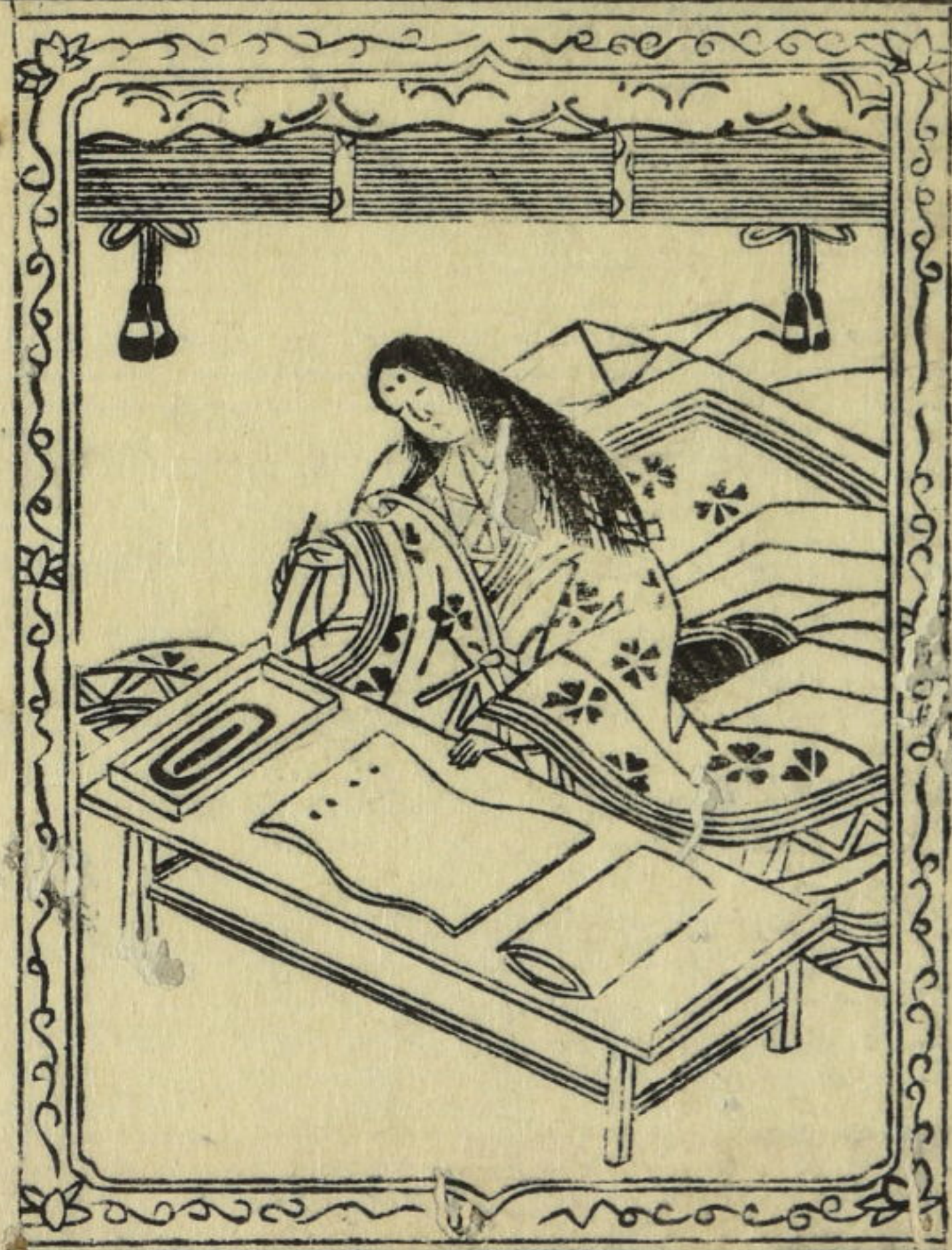
三

專門家自物野一信
 至曾山九七十二人
 雜傳自...後...
 九十四人
 物野家果世畫法
 畫術流具之鑑
 下





日本書紀傳



合口類聚の書

本物意事傳下

専門家

将野正修六指聖乃仁祖なり
 後名曰節二帝と名はく又六
 物と稱す判髪志く秋藤と
 及び悦奉之巻居小の法
 服位小叙す後氏乃支別お別
 田原の人なり囊祖の係豆國使
 持也後河与維系乃係高ありま
 何依と号す後花屋流永年
 中少のく流小法へ入る
 作とあり古法服充信う又あり
 今之孫六年癸酉の祀も之凡
 二百七十年小乃の巻居八月女
 降ら又小粟心丹と降うてま

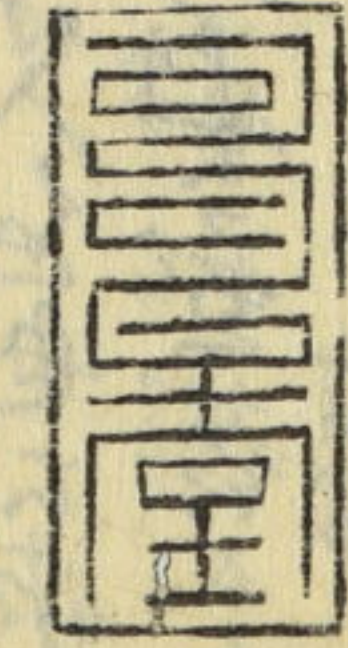


其類を以てゆりくたの又宋の景
 攢とありしりらめ公方金園
 乃後と云丹小可しひらまき
 ちくたりの書母取物と云
 あり刻ス命と云徳と書母
 系ぐと云かん守書母金成乃後
 小抄のく首と云傍境乃宣あ
 るとのと輝徳と云備小正信と云
 めくこれと云ぐと云り書母
 傳小所謂を能小不らと云備
 意後徳乃のありと云ひひかり
 こ小抄のく正信と云能小
 せと云と云れりる法推
 小書と云と云法ありひら
 横式目録ありと云子と云と云
 小書と云抄書氏於小天下と云

其類とありりる
 ちくたりの書母取物と云
 あり刻ス命と云徳と書母
 系ぐと云かん守書母金成乃後
 小抄のく首と云傍境乃宣あ
 るとのと輝徳と云備小正信と云
 めくこれと云ぐと云り書母
 傳小所謂を能小不らと云備
 意後徳乃のありと云ひひかり
 こ小抄のく正信と云能小
 せと云と云れりる法推
 小書と云と云法ありひら
 横式目録ありと云子と云と云
 小書と云抄書氏於小天下と云

正信

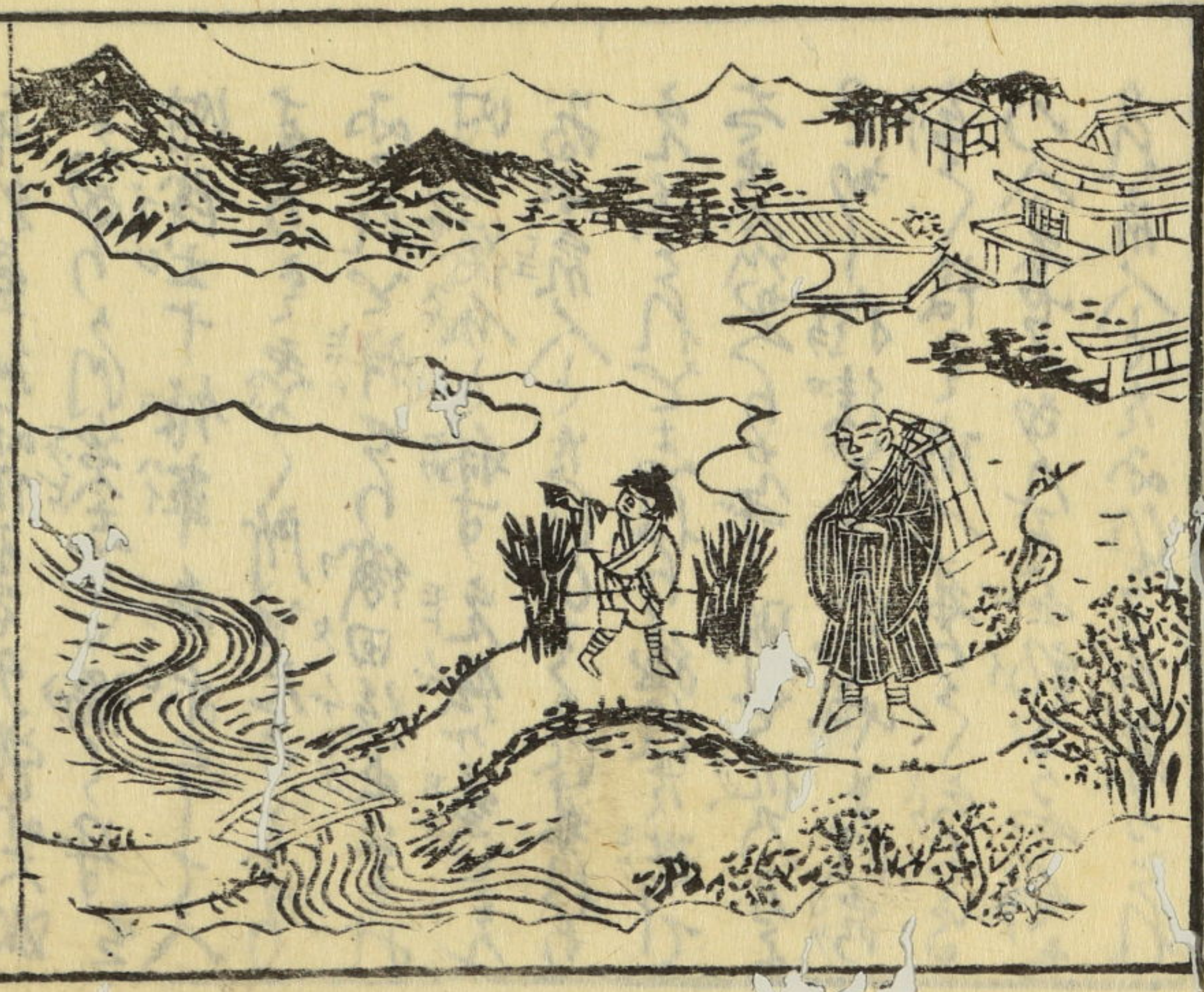
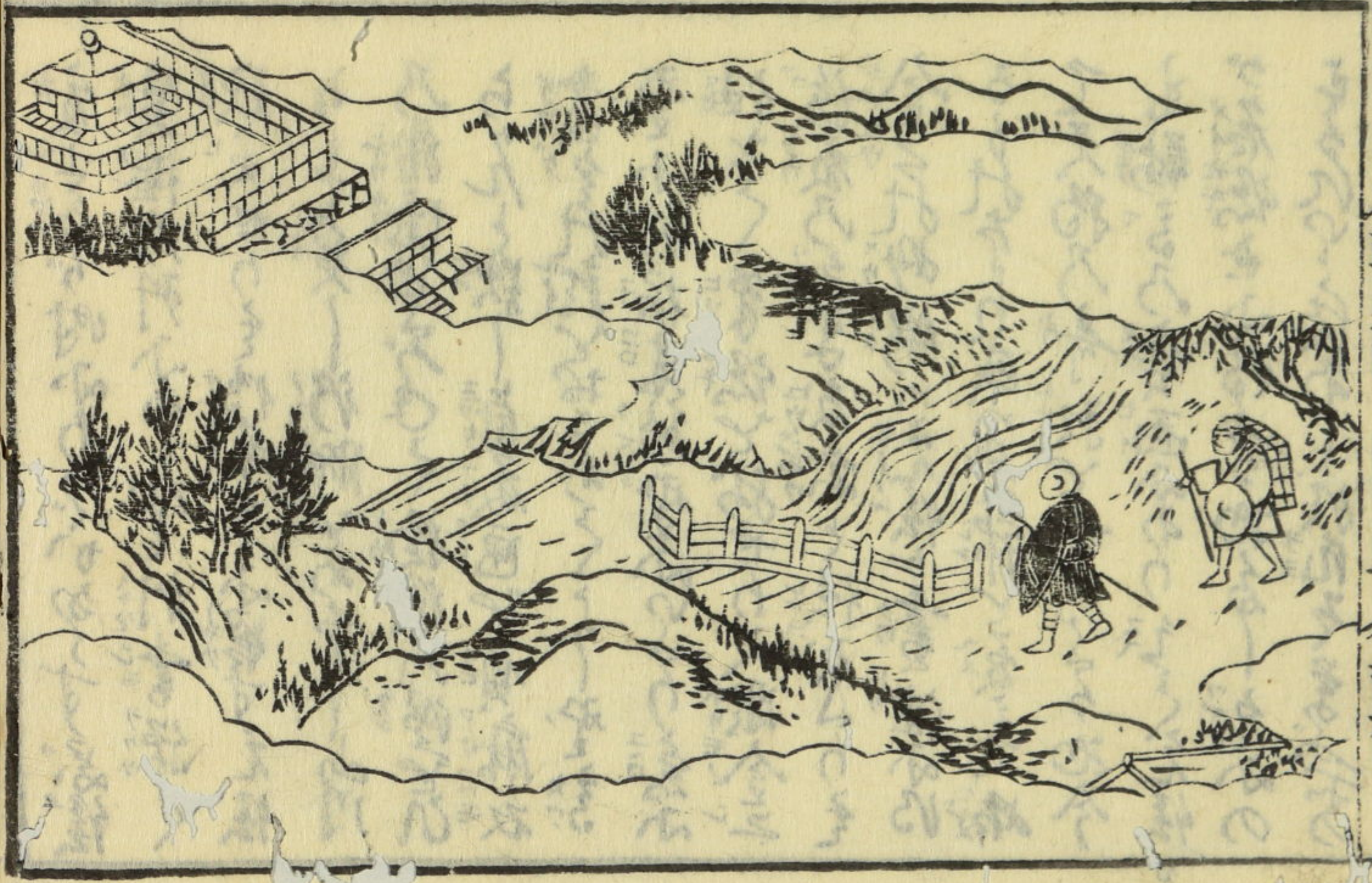
印文



初名正信
 後と云と云す
 永仙と号す

叙す世小古法眼とりの能なり
 皇公等あつた又ふささり持せり
 乃宗とさるあし古作と信り
 奪ちり古依氏家族ふさのりて
 元依氏とく維乃乃強とあつた
 和温神の細糸徳洞の清
 秀のり山あく物多敷花本其小
 妙と格と非ふ入色世古依
 氏乃和登音子乃墨登登を
 推小のり元依りとたの教雲を
 矣とつし和漢を宣公のり安
 とく古今小冠とて和法小甲
 乃の承正乃法教攝乃山あ花多と
 依く菊船小附く船小守
 知勢城鄭のりとて日本及び
 年未け法あつたとあすり

カ士とが時ふあつたかあす
 實澄乃列小あんと別書強
 款とせりを傳来く小守元依
 乃て後一乃脚とめく一山川
 乃清境とさまく物鏡乃清とひ
 らんと款一自為國と負麻衣
 畫をれと格とあつた
 聖小乃振東徳世のり
 任とく孝徳とあせり又融金之
 後乃多子友家と依及り
 金之れ妙術のり信が書法小乃
 るりれちり或の神とあつた
 て天物乃壽と書ゆら物今
 も能る乃雲西あつた
 乃能世小守あつた物多一
 なるのり信あつた

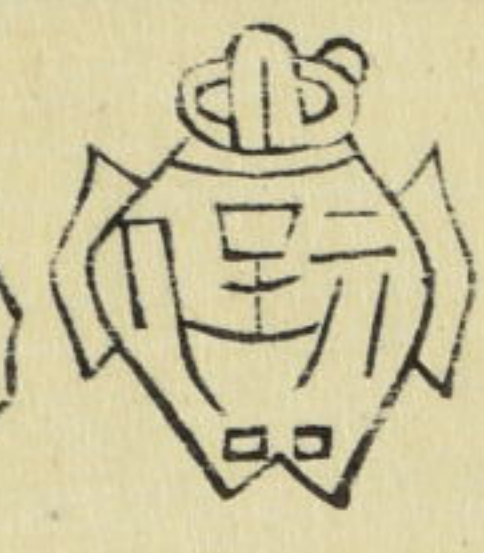
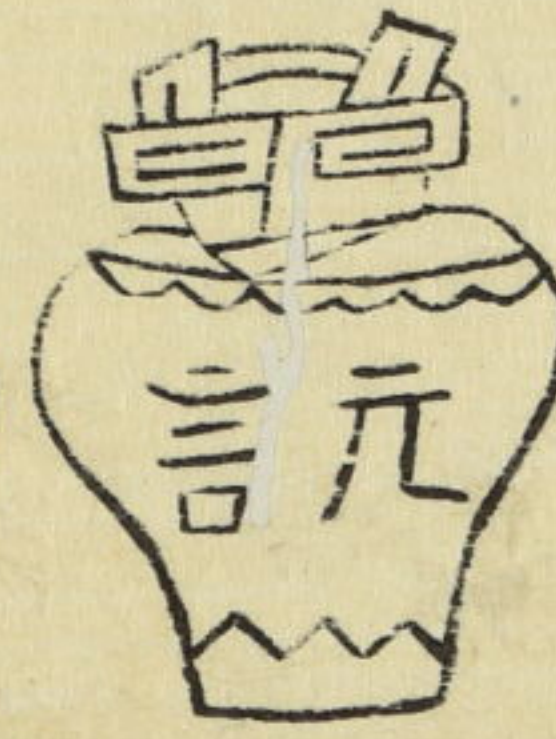
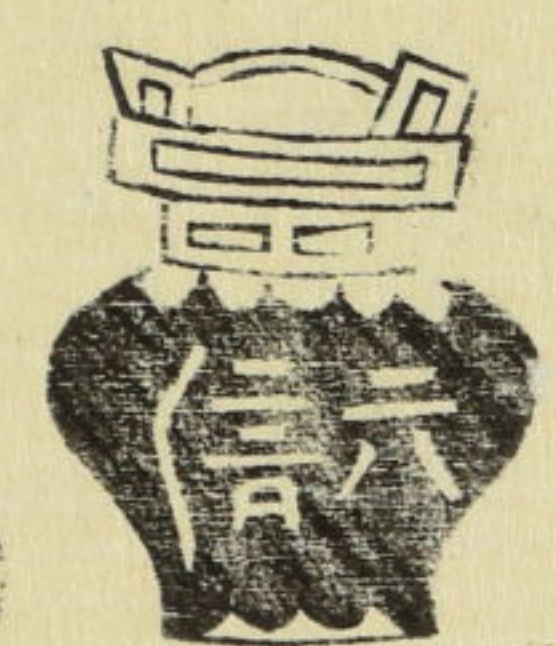


山ありをを友極牧溪玉雁舞
 奉子暇り遊人如又るを友
 瑠梁橋於輝花名月別朝昌

ハエンシキキ 和盤ハ何位矣光
依グ法也格ハす一生涯業勢自
他乃奇志ありくかそあぐは
本給登格小回るるり 誠小大
志ありの門受志く 備く守る
附武士十餘輩 卒尔して入
事のそあぐ 所と格とさり
小これと弾正の織田信長と
附と格と格と格と 先信が登と
為小衆人とたひひそくはあれり
先信これと志れり格は格で
志出成也りカ年 脚と格乃
里初 格法と格とてやま格
格と格と格と格と格と格と
乃入来也のあんど格と格と格と
格と格と格と格と格と格と

格と格と格と格と格と格と
これと格と格と格と格と格と
りやり 何が故小あつ格と
カんとりり格と格と格と格と
知ぬ格と格と格と格と格と
己未冬十月甲辰 格と格と格と
志く格と格と格と格と格と
よ及ぐり格と格と格と格と

元信
印文
古法眼



狩野大炊助

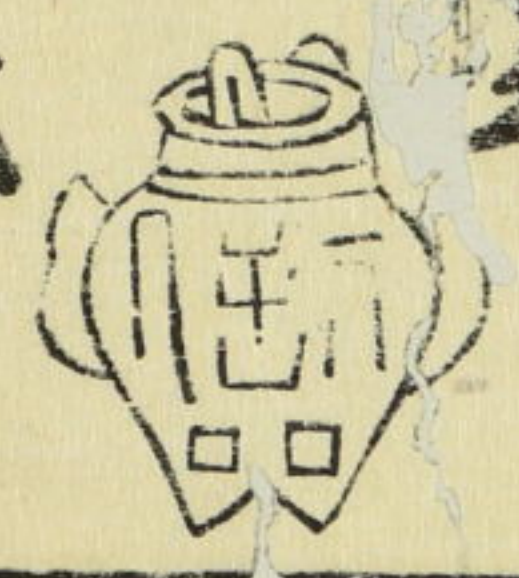
元信筆集

右に八字や及二行ニあり

狩野大炊助元信筆

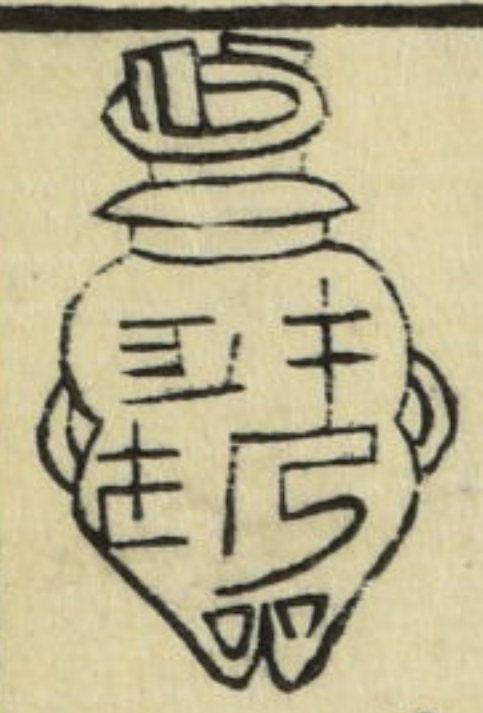
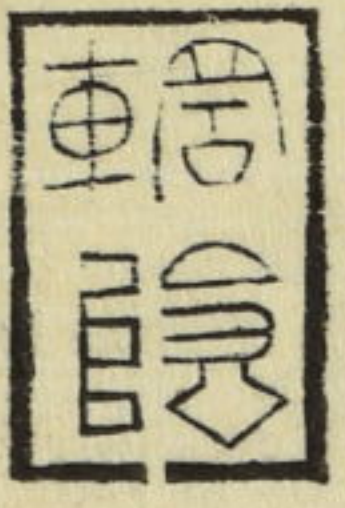
右に九字あり

生年



嘉成

狩野大炊助元信筆
右に九字あり
上あり
右に八字あり
二行あり
狩野大炊助元信筆
右に九字あり
上あり
右に八字あり
二行あり
狩野大炊助元信筆
右に九字あり
上あり
右に八字あり
二行あり



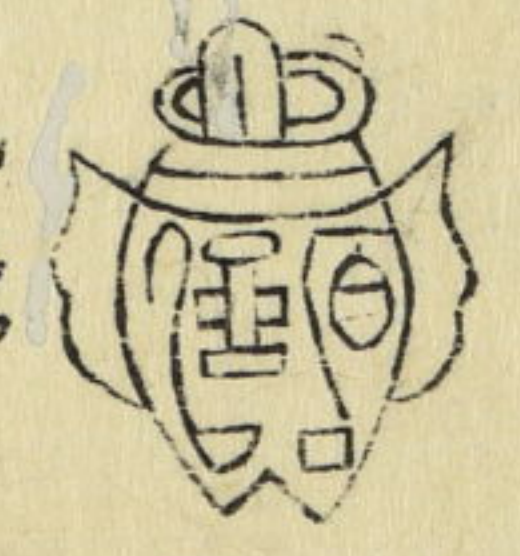
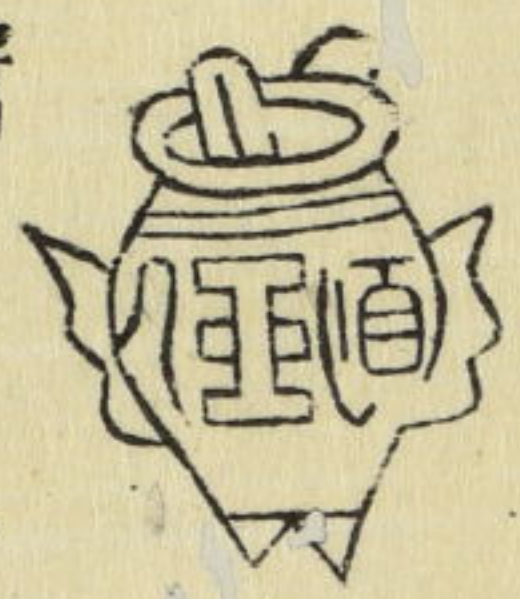
松平 國松九代に於て初名としてあり
松平が妻とてうく山崎人把死
を以てかくる力稍控りたる如し
志とて松平の身とて出たりて人
度多し松平乃れ又とてりたる如し
瑞いかに不幸絶命ありてあり
及ふ生とてあり

松平 國松九代に於て初名としてあり
松平が妻とてうく山崎人把死
を以てかくる力稍控りたる如し
志とて松平の身とて出たりて人
度多し松平乃れ又とてりたる如し
瑞いかに不幸絶命ありてあり
及ふ生とてあり
松平 國松九代に於て初名としてあり
松平が妻とてうく山崎人把死
を以てかくる力稍控りたる如し
志とて松平の身とて出たりて人
度多し松平乃れ又とてりたる如し
瑞いかに不幸絶命ありてあり
及ふ生とてあり

松平 國松九代に於て初名としてあり
松平が妻とてうく山崎人把死
を以てかくる力稍控りたる如し
志とて松平の身とて出たりて人
度多し松平乃れ又とてりたる如し
瑞いかに不幸絶命ありてあり
及ふ生とてあり
松平 國松九代に於て初名としてあり
松平が妻とてうく山崎人把死
を以てかくる力稍控りたる如し
志とて松平の身とて出たりて人
度多し松平乃れ又とてりたる如し
瑞いかに不幸絶命ありてあり
及ふ生とてあり

松平

印文

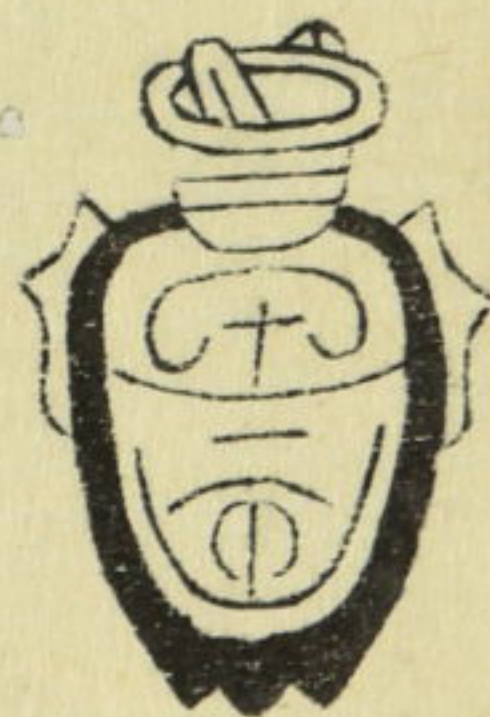


松平 國松九代に於て初名としてあり
松平が妻とてうく山崎人把死
を以てかくる力稍控りたる如し
志とて松平の身とて出たりて人
度多し松平乃れ又とてりたる如し
瑞いかに不幸絶命ありてあり
及ふ生とてあり
松平 國松九代に於て初名としてあり
松平が妻とてうく山崎人把死
を以てかくる力稍控りたる如し
志とて松平の身とて出たりて人
度多し松平乃れ又とてりたる如し
瑞いかに不幸絶命ありてあり
及ふ生とてあり

才子と死なり

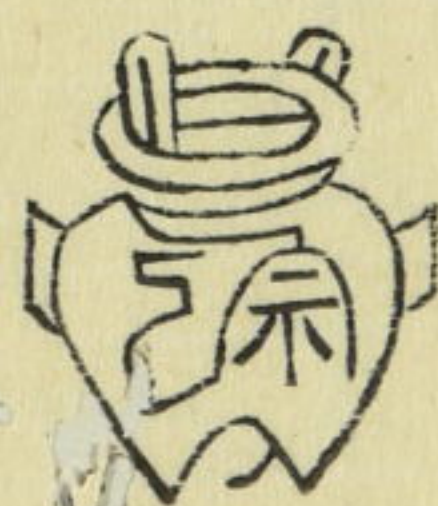
去也

印文



宗月法眼三言 仍記不見

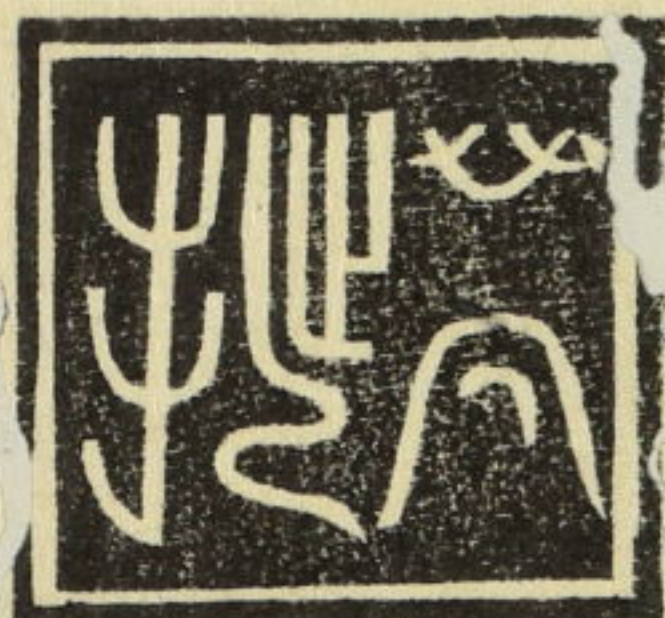
印文



得聖養拙三言 古法眼三言 仍記不見
子ありを不性又とくうにせず
よく山あり人抱花名伝あぐ、後力
猶弱三言 一さんたんた、さらわん

養拙

印文



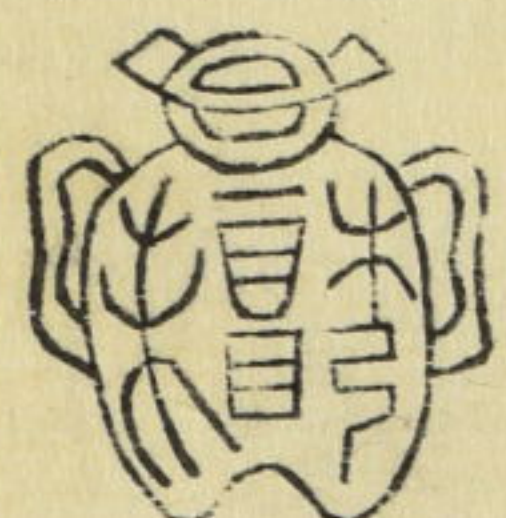
能房三言 養拙三言 仍記不見
得野泉三言 世傳三言 仍記不見
いまごゝ突智とあし守りく山あり
人抱花名とあぐく久伝三言 仍記不見
引三言 一とくを切とたどく、さら

所知ぬる

得聖三言 養拙三言 仍記不見
位乃仲子三言 仍記不見
定三言 一とくを切とたどく、さら
ゆり今世あり、るる、るる
得聖三言 養拙三言 仍記不見
とあぐく山あり、人抱花名とあぐく
又位正と去別、仍記不見

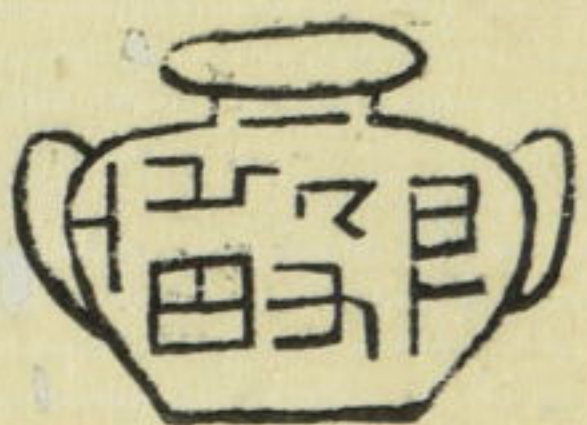
真笑

印文



承美 十九 傳記不見

印文



猶也 玉樂 世傳小元佐乃孫
始たり 象法 元佐と云ふは
終出 秀来あり 在平あり
世人 祝共し 元佐が 親孫と
す 其より 不知ぬ 倉一 小田原
氏 政乃 置作あり

玉樂

印文



賢神 玉樂 必為之 傳記不見

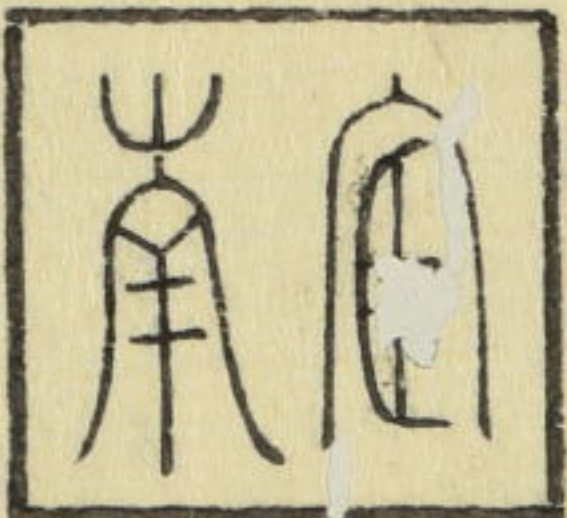
金玉優 官南と稱す 氏政の 臺

師あり 系思 玉樂 必為之 右法 耶

元佐乃 ありし 傳記 不見

金玉仙

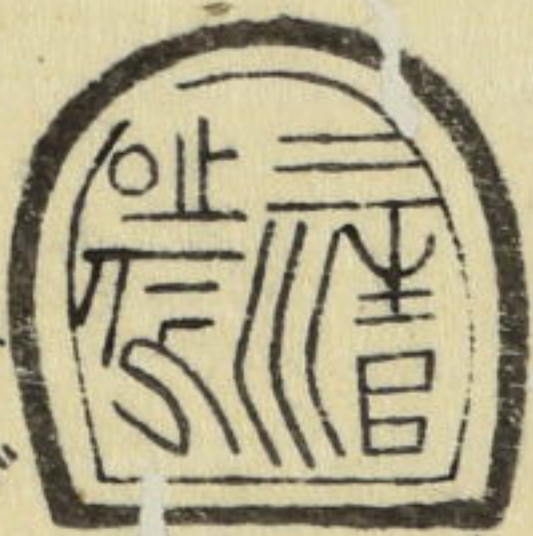
印文



壽下 小田原乃 後人 系思 亦同

印文

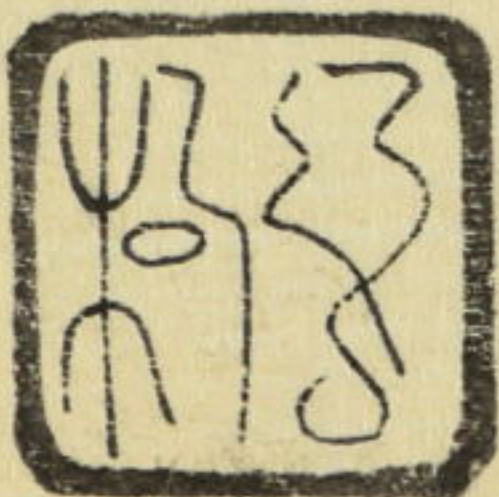
傳記 不見



佐美 齒 猶也 系思 亦同 傳

印文

智日考



元忠 猶也 聖たり 系思 亦同

傳記 不見

元忠
印文



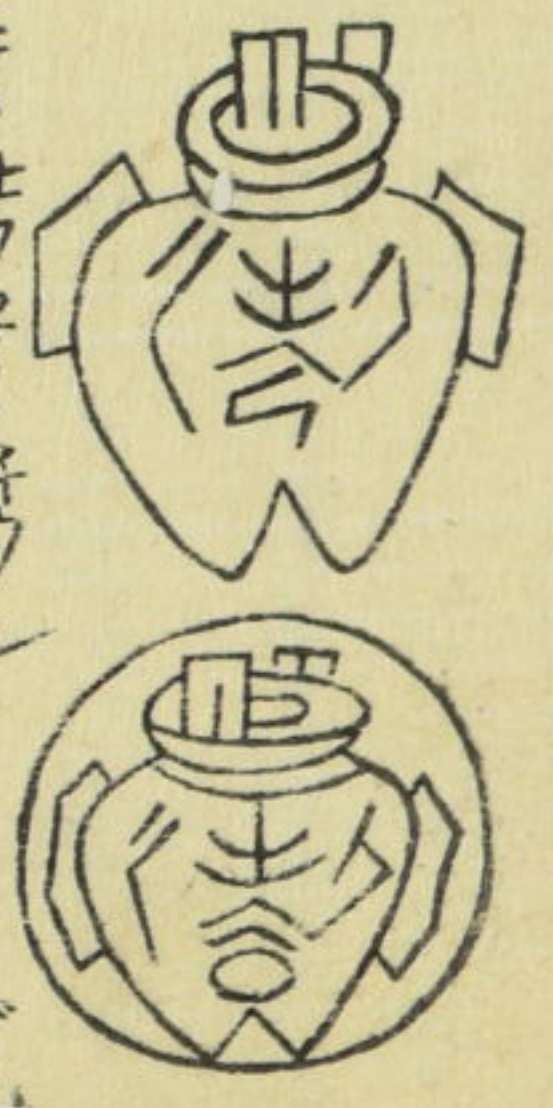
持世の永徳共始乃名源四郎松
兼子ありて元徳の孫たりて
神と元徳少く山あり人抱に名を皆
細重とあすりて大徳あり是小
むむ時ハ舞鶴乗徳乃持世と
平らとて先祖少くはあり
兼子秀吉云大徳を探と建る永
徳とて金徳小徳とて世
乃彼亦又金徳とまうりて時ハ
らずも登徳とりてむ永徳細重
みよはあに故あり大徳成たり
て一益小流事と松梅大樹ハ去

さ一二丈人抱の言こ三四尺小徳
す兼法持ありて門弟ありこれ
元徳とたあありて徳あり
備どうありて兼徳と兼徳と
用ゆ大徳祖風とて新徳と出せ
里奇く性とて自りて兼徳
不徳れ徳と持りかこのとて
と大徳小徳とて立百年兼徳と
あらずありて法徳とて兼徳
兼これと持と天正庚寅秋九月
又小徳とて年四十八
別徳小ありて天正壬辰四月肥後
兼徳兼徳兼徳兼徳乃山里十回
座入りて西王母乃兼徳とこれと
兼徳とて兼徳小ありて兼徳
小徳一壬辰小徳兼徳と

元忠
印文

是れはくまのふりて世にあらと
稱す津と御信と云

永徳
印文



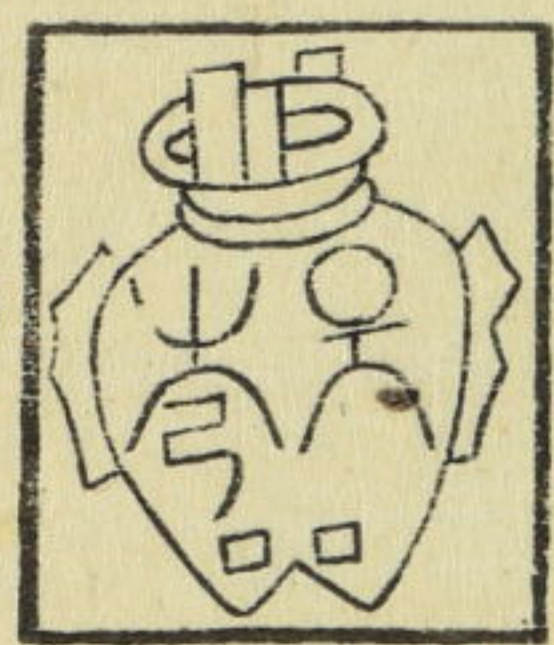
持世のふりて松榮の仲子なり
法眼のふりて松見の永徳と云ふ
龍縁と云ふれりされは父見ふ及

ず法眼位ふぬす

長院の信儀名多し
宗系あり子永徳の甥なり傳死

真説

印文

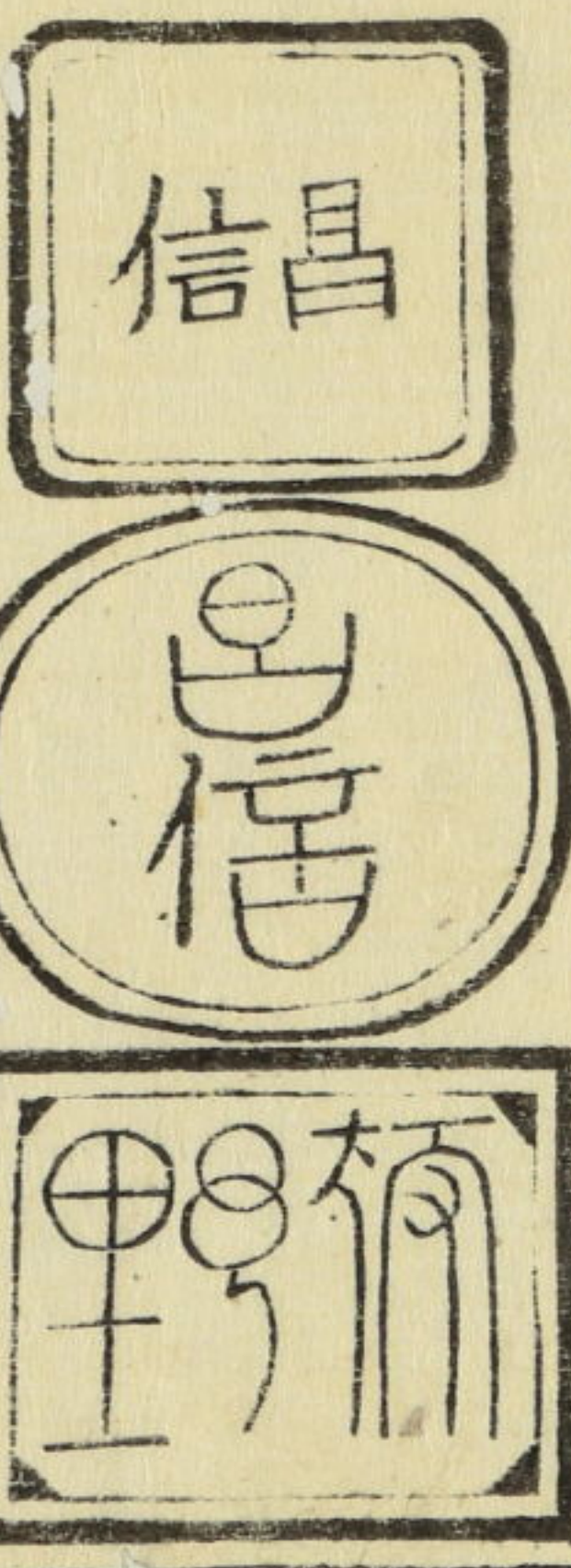


持世の源七郎
永徳と云ふくそ
後年よりく新奇なる松榮永徳

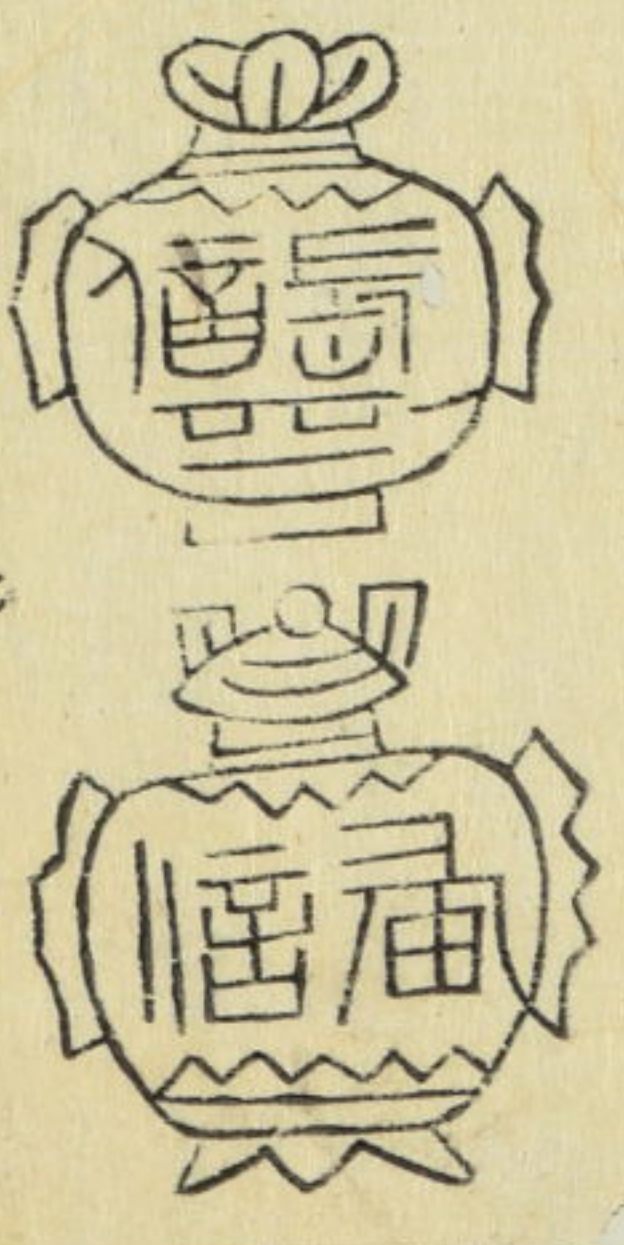
先多々
休白子
後永徳が甥松榮が孫

又平文あり長行と云ふ
法橋体白と稱す同く是れおる

印文



前法橋
休白印文



友近の造
持世の元後

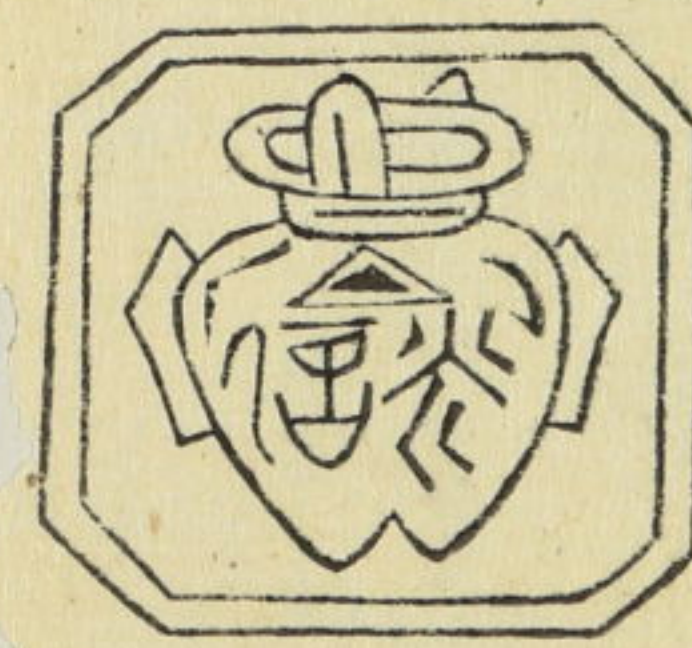
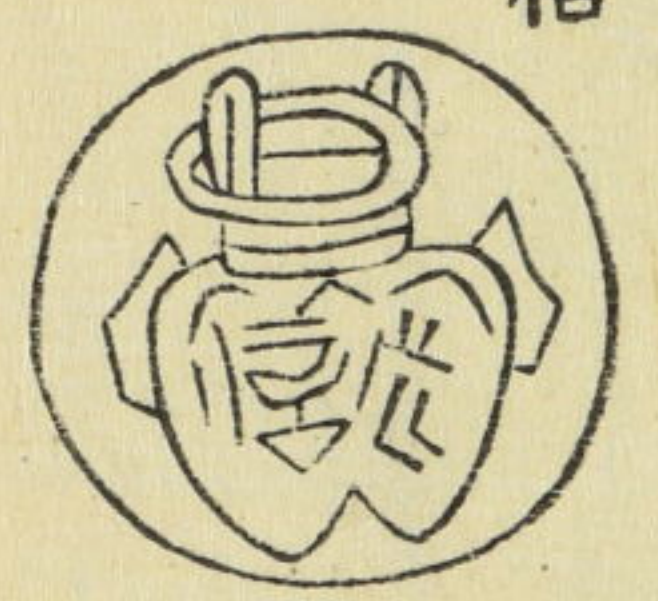


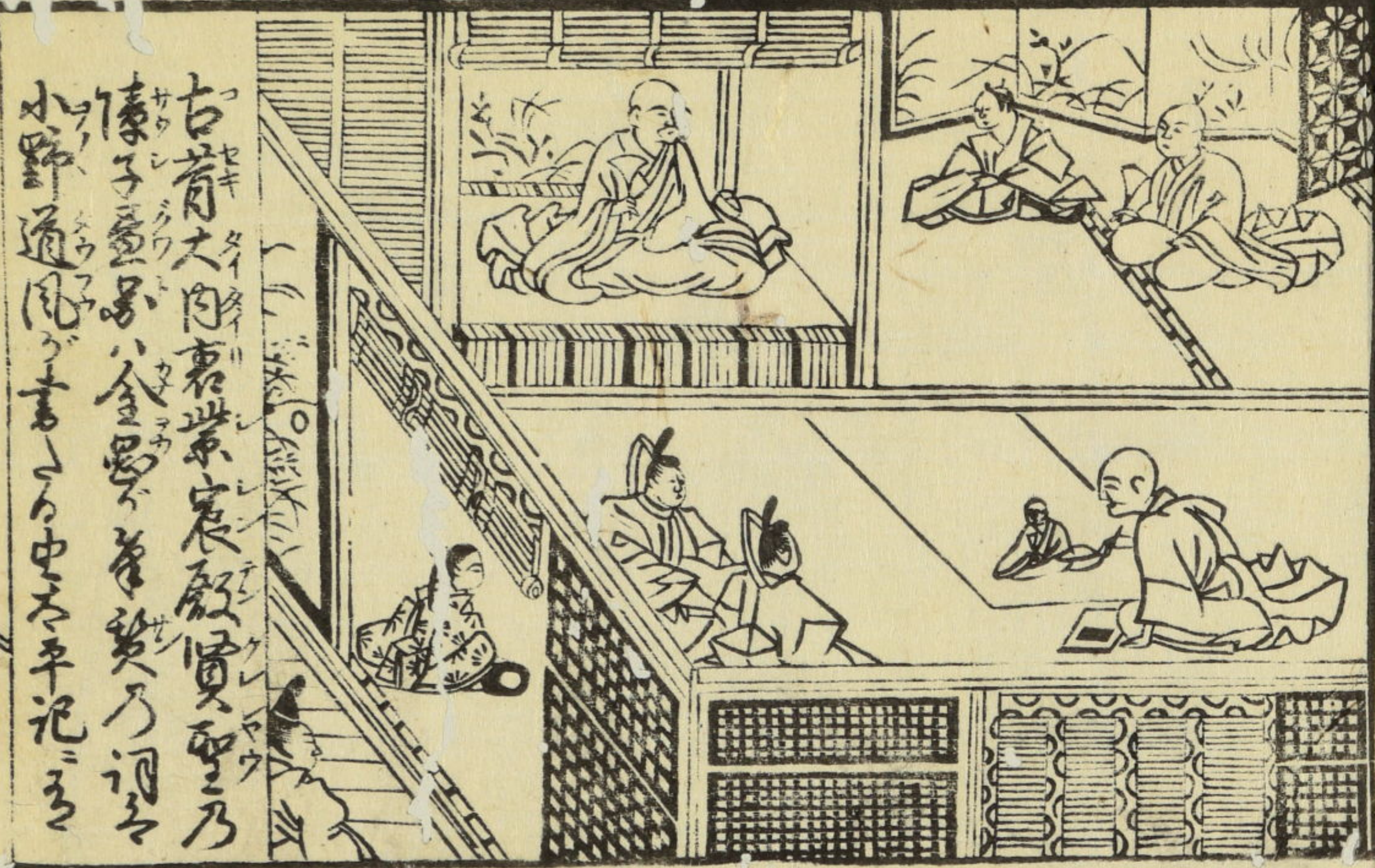
右京光信

徳が矯子たり屋力又小志守
 叔小法とつては又叔とく
 叔家族門生等小費奉せん
 て致とく一法と好死等金
 野成等く和屋乃即志授系小
 志と志一人等又玉相く家
 とく又受奉ふ及守ととと色
 又凡多かくさるりれたり候水
 お必ち乃法堂天井乃幡法ハ
 己系乃の老候る墨痕あり其又長
 正刀年曰十二歳なりとくお守
 永志と書子と守初ハた系す

右京光信

印文





古昔大内裏崇宸殿買聖乃
 傳子意思ハ金思々者其乃詞々
 小野通風言中平記云々



印大
 方二寸
 余

筆峯夫
 居士アリ



印文
 探幽



法眼よりなりく法中不教と
 法上法皇乃勅勅不教一系
 玉神とわし探幽と
 小孫乃乃聖徳のり延喜二年
 甲寅十月七日あふとく延と壽
 考七十二歳 別傳云探幽法眼
 白蓮子文月法中不教す後令
 志く名と筆峯生ゆく徳小
 後陽成院是と七壬寅曆生と



東一之間。馬周。
。房玄齡



。杜如晦



。魏徵



東二之間。諸葛亮。
。龐伯玉



Vertical text on the right edge of the book, including the characters '百' and '十'.

張子房



第五倫



東三之間 管仲



鄒禹



鄭子產



蕭何



東四之間 伊尹



○太公望



○傳説

○仲山甫



西一之間

○李勤



○虞世南



○張華



寬榮
西三之間



班固



揚雄

陳寔



西二之間
羊祐



杜預



木草

○才朝魚



○鄭玄

○蘓武



○倪寬



西四之間

○文翁

○董仲舒



○賈誼

○叔孫通

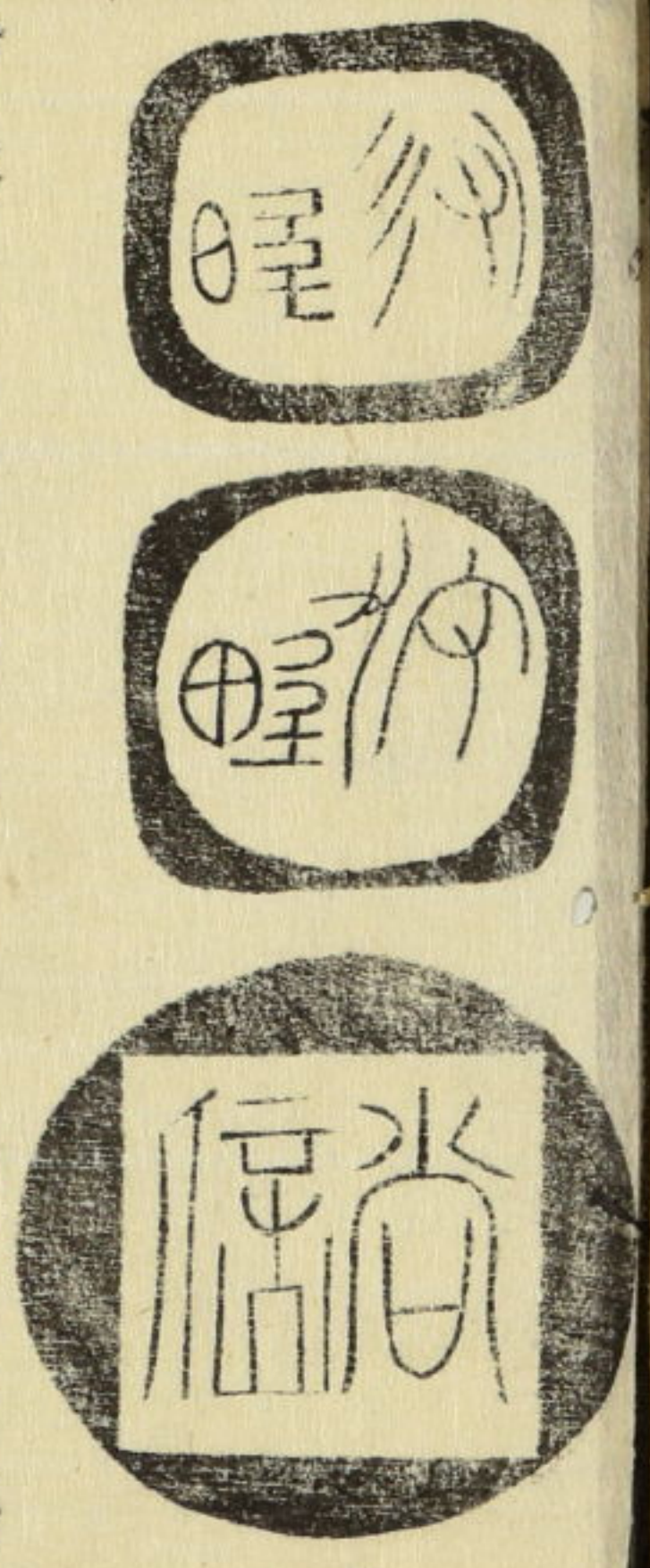
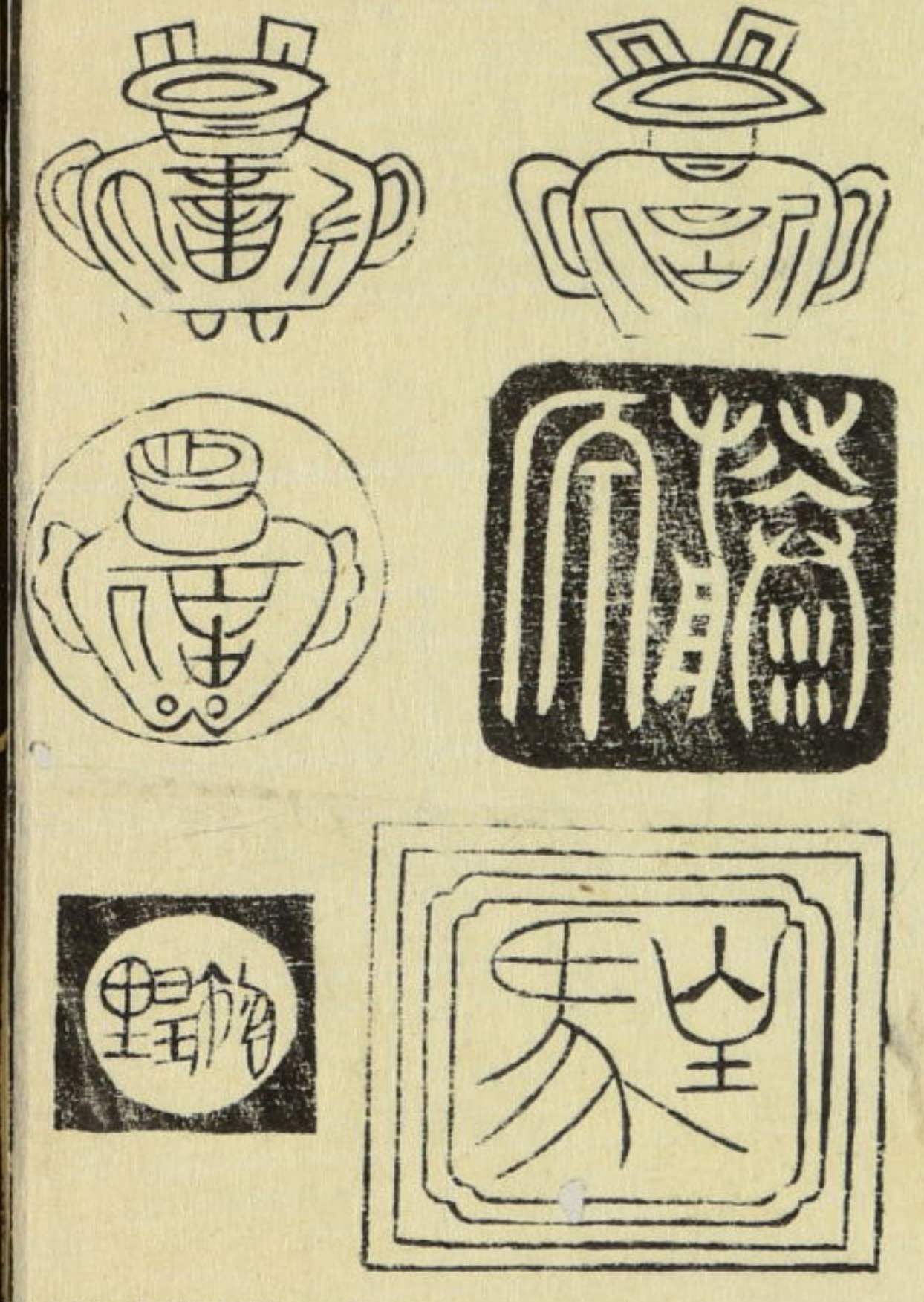
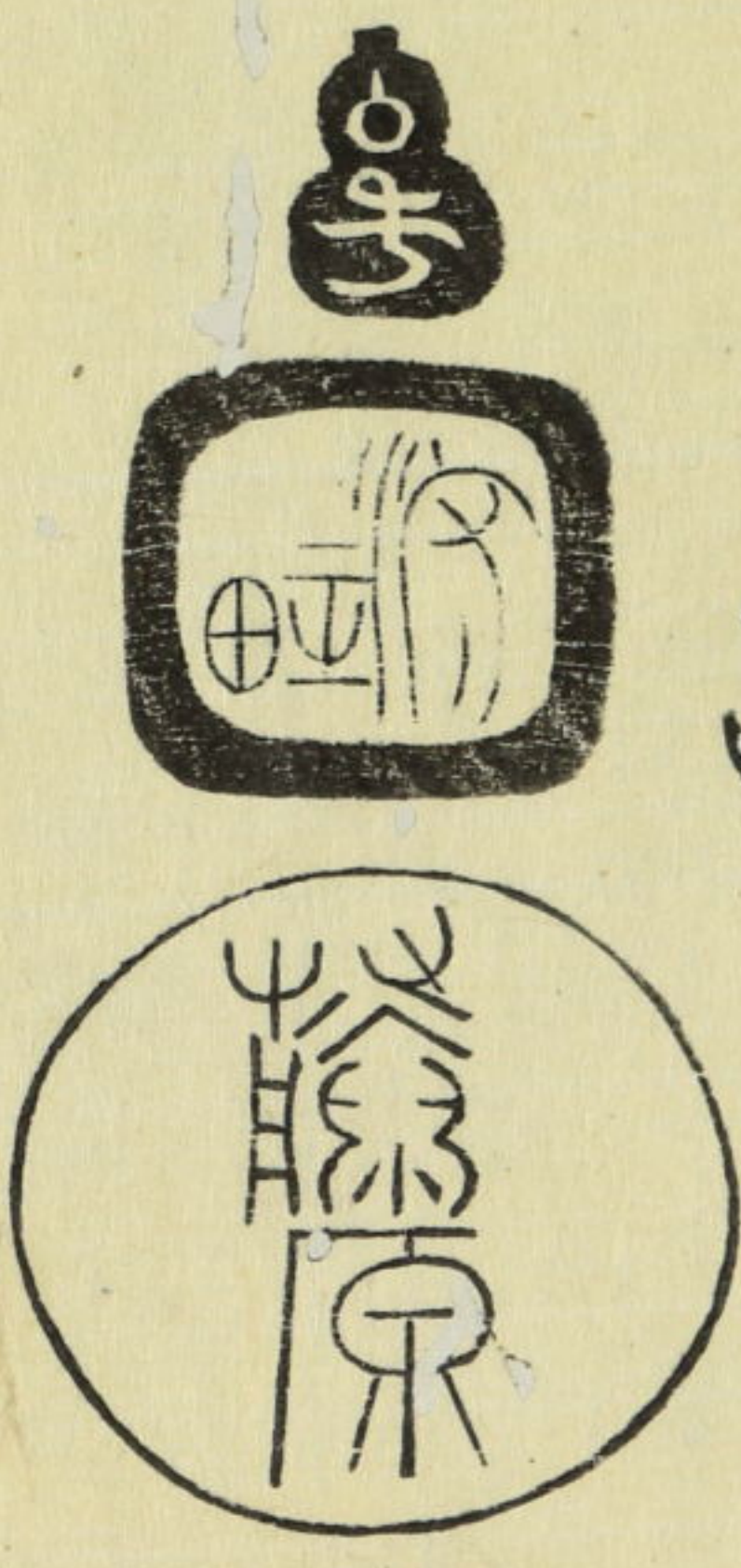


○才朝魚

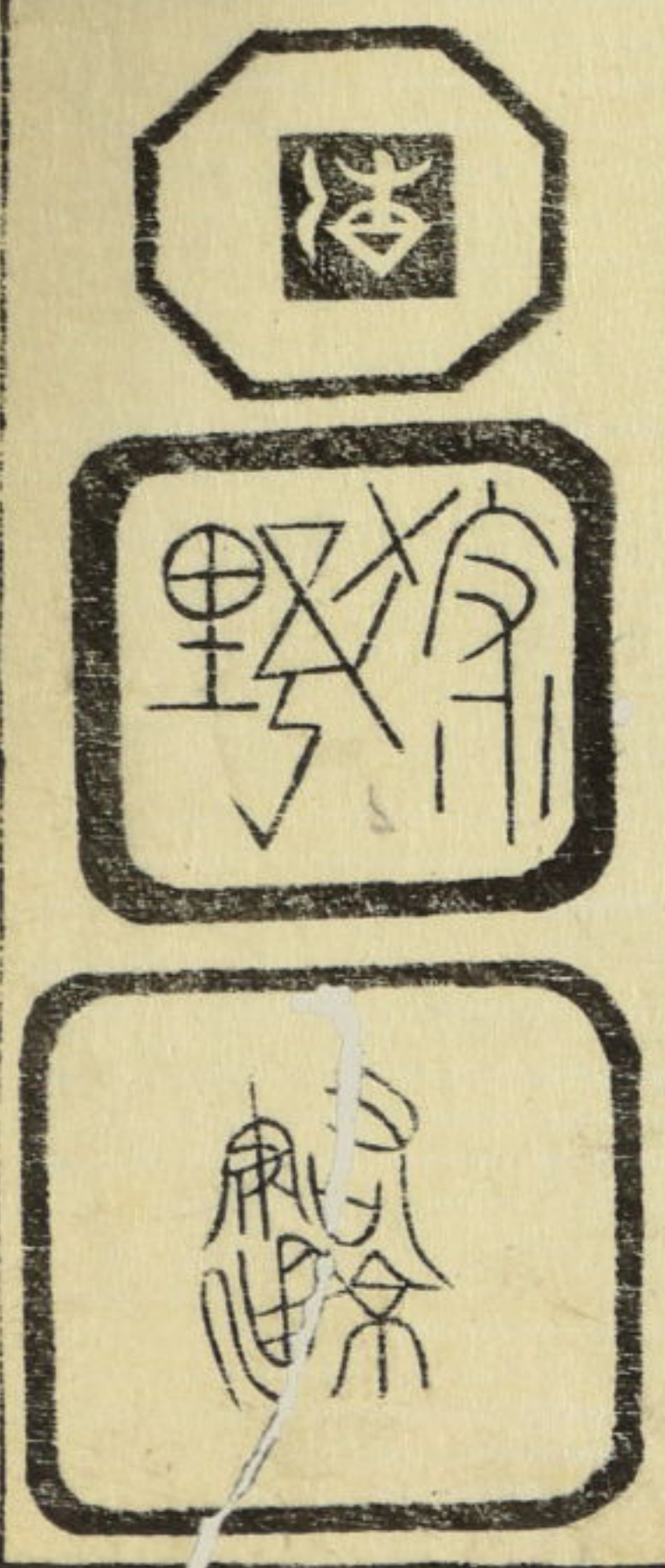
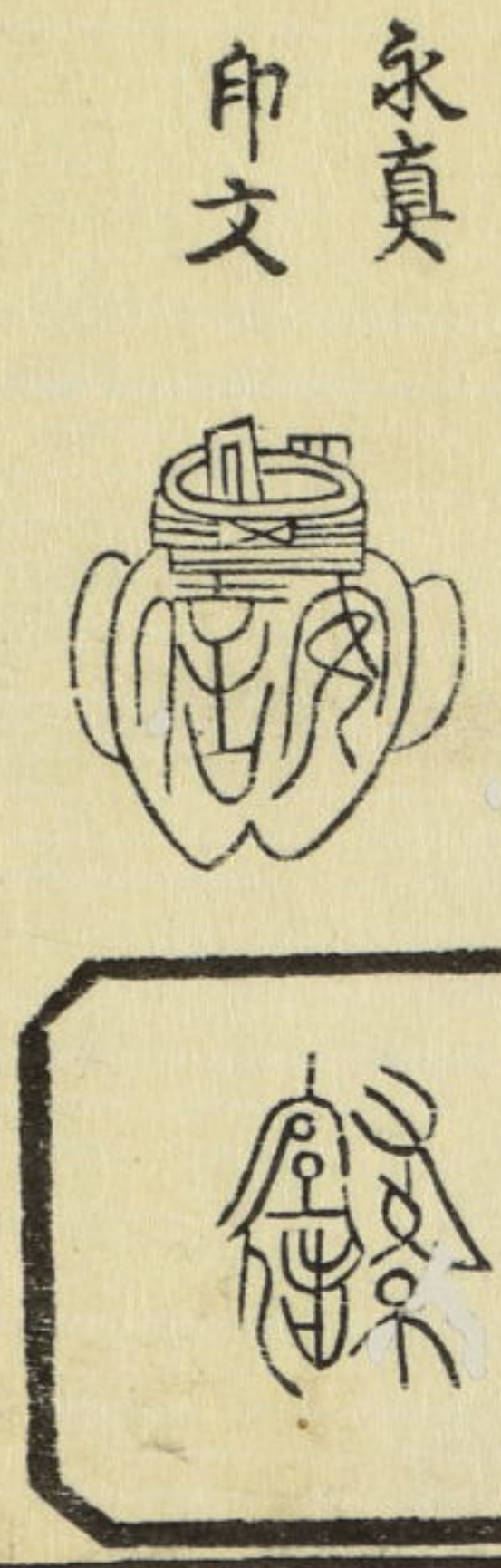
○才朝魚

尚位カクノク三百ニヒト四ヨよりなるゆゑと稱す又自道ニヒト毎ニヒトと稱す孝行カウコウが仲子ナカコ探幽タンウ才サイ

自道齋



永エイ志シ 三百ニヒトソクミヤウ
 永志エイシ 五百イハヒト倍バイ 居イ源ゲン 室シツ 而ニ 且カ 永エイ 陸リク 孫ソン
 右ウチ 近キン 於オ 監ケン 孝コウ 行コウ 終シュウ 末マツ 又マタ 探タン 幽ウ 才サイ
 右ウチ 系ケイ 安アン 修シュウ 又マタ 救クウ 心シン 亦オク 与ヨ 号ガウ 寸ソウ 寸ソウ 向コウ
 法ホウ 服フク 小コ 叙シヨ 寸ソウ 尺セツ 在ザイ 拍パク 監ケン 光クワウ 修シュウ 才サイ
 体キ 白ハク 聲セイ と ぬる

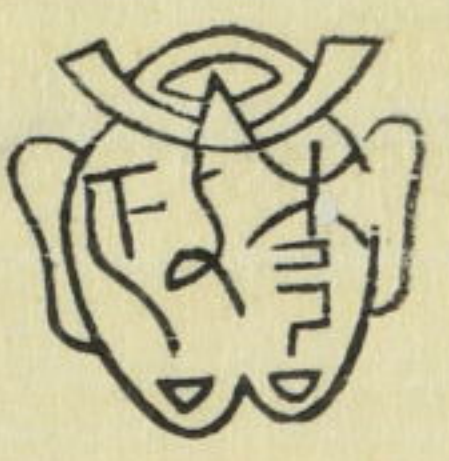


永真印文

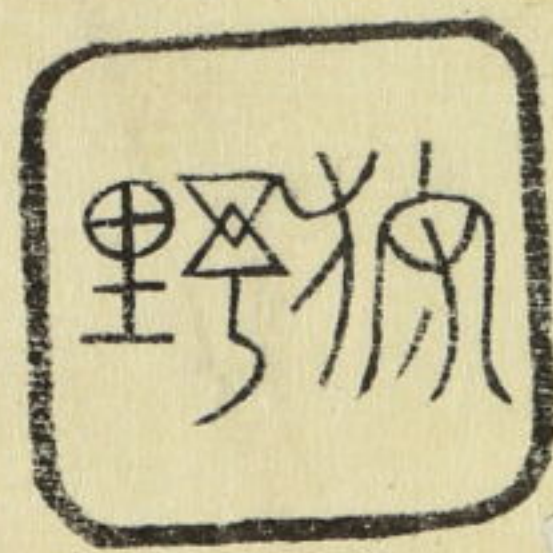
了不三百治千於七口 傳記不見



了三百義七又七了七系七と七去七信七居七去七六
律季改了不小物七之七傳死不見



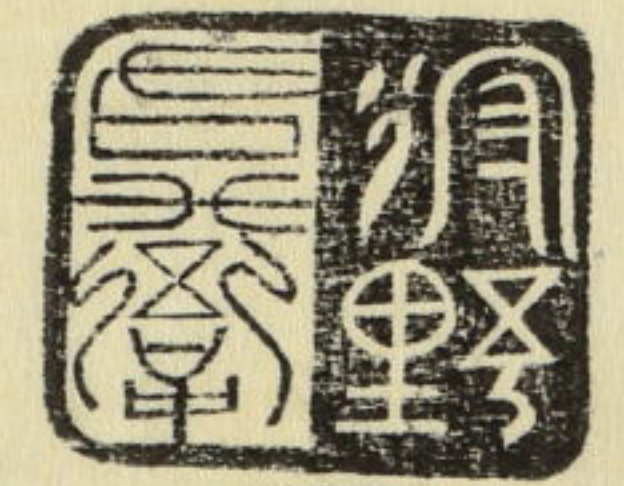
元信無八集人と云法居去信
又云順と去



知信一字と終す傳不見

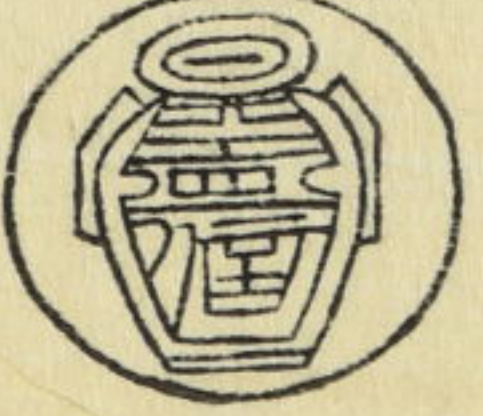
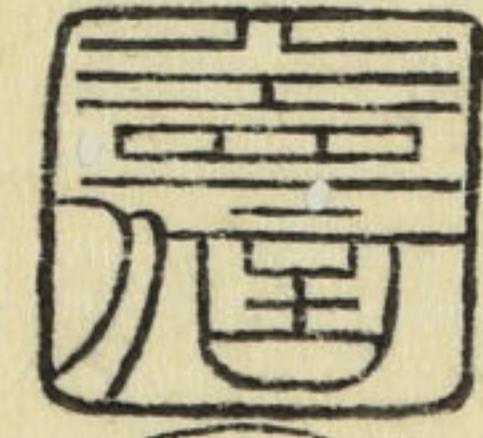
系了不小り物之

時信一倍信源印右系と終す
永信孫者信孫永と子のり



親信三百主水と終す
益信三百宋女と云又洞雲と終す
探出書子のり

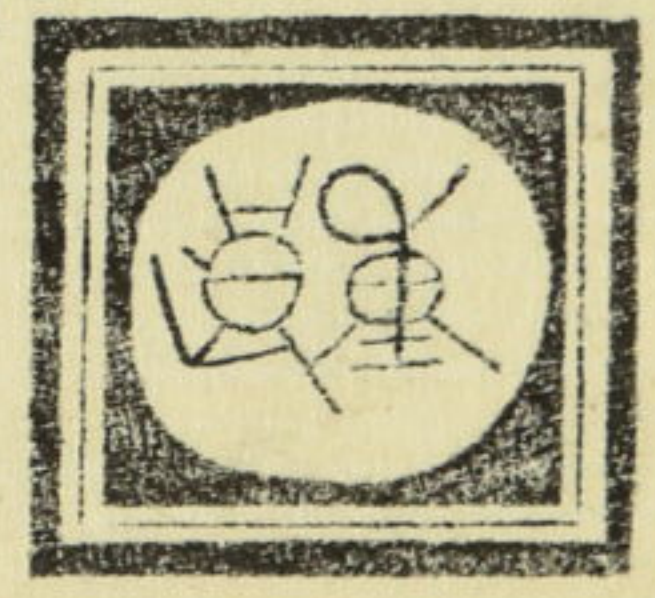
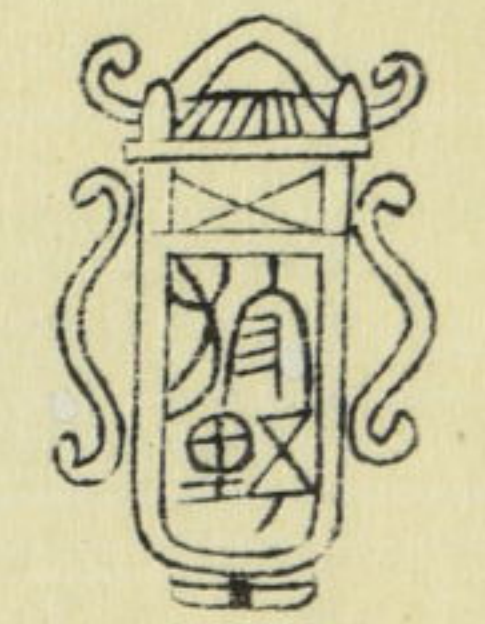
益信



常信五百右進と終す又三百之の
耕免所用外を終す

本朝金印
下九四

内近^{カクニ}三百^{カクハ}六^{カクハ}特^{カクハ}聖^{カクハ} 法^{ハフ}名^ナ宗^{ソウ}心^{シン}と号^{ケル}す
内^{ウチ}後^{ノチ}三百^{カクハ}一^{カクハ}侯^{カクハ}と称^{ケル}す 法^{ハフ}名^ナ宗^{ソウ}心^{シン}と号^{ケル}す



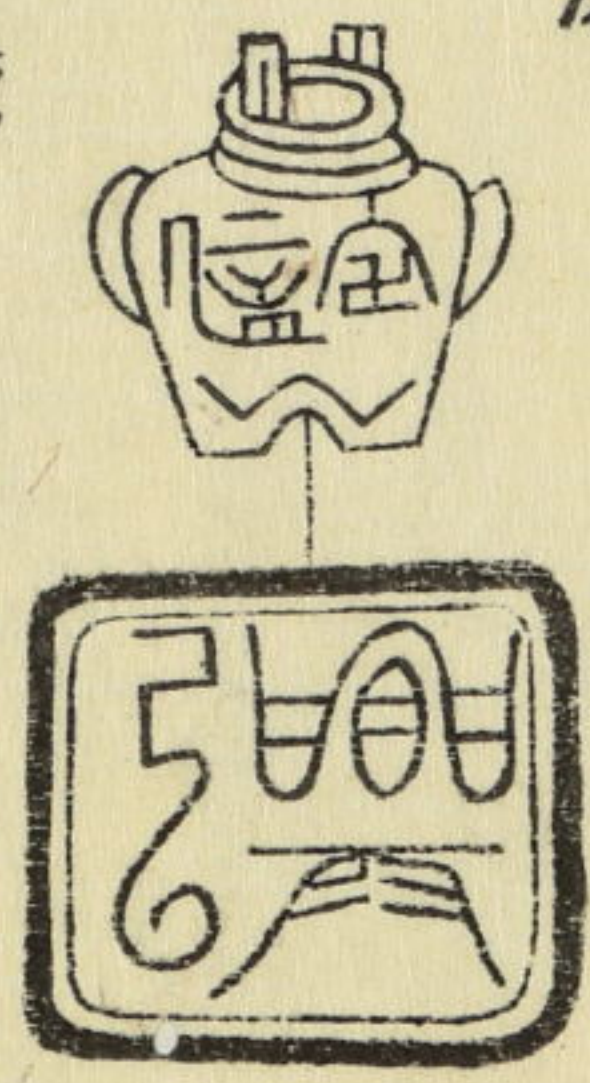
祖^ソ商^{シヤウ} 特^{カクハ}聖^{カクハ}と号^{ケル}す 永^{エイ}徳^{トク}門^{モン}也^{ナリ}
外^ゲ化^{キヤ} 古^コ外^{ガイ}化^{キヤ}と称^{ケル}す 律^{リツ}後^ゴ政^{テイ}と
云^{イハレ}法^{ハフ}名^ナ宗^{ソウ}心^{シン}と号^{ケル}す 法^{ハフ}名^ナ宗^{ソウ}心^{シン}と号^{ケル}す

印文



道^{ダウ}味^ミ 平^{ヘイ}特^{カクハ}聖^{カクハ} 侯^{カクハ}名^ナ宗^{ソウ}心^{シン}と号^{ケル}す
宗^{ソウ}心^{シン}と号^{ケル}す 法^{ハフ}名^ナ宗^{ソウ}心^{シン}と号^{ケル}す
宗^{ソウ}心^{シン}と号^{ケル}す 法^{ハフ}名^ナ宗^{ソウ}心^{シン}と号^{ケル}す

興^{コウ}意^イ 五^ゴ特^{カクハ}聖^{カクハ}と号^{ケル}す 生^{セイ}國^{コク}是^シ利^リ侯^{カクハ}名^ナ
孫^{ソン}也^{ナリ} 孫^{ソン}也^{ナリ}



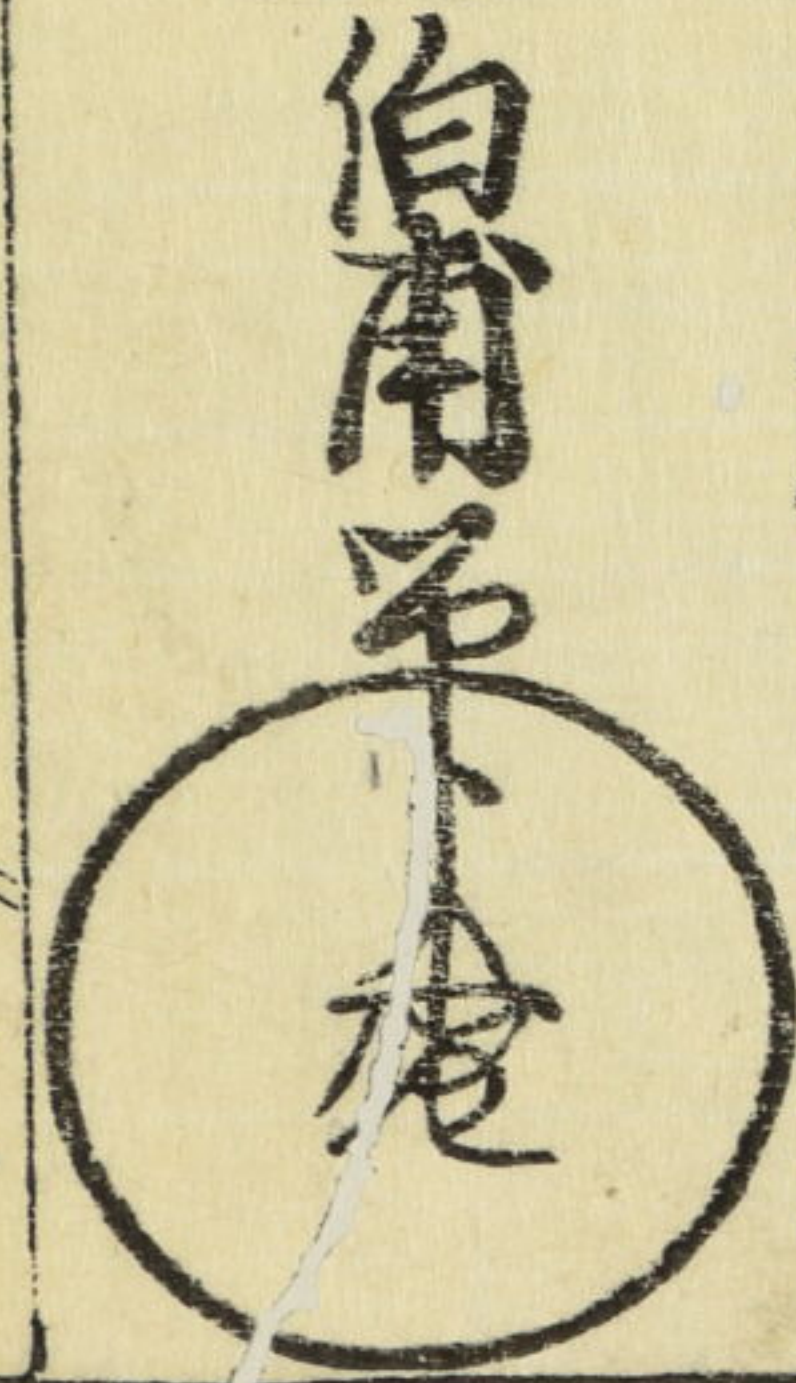
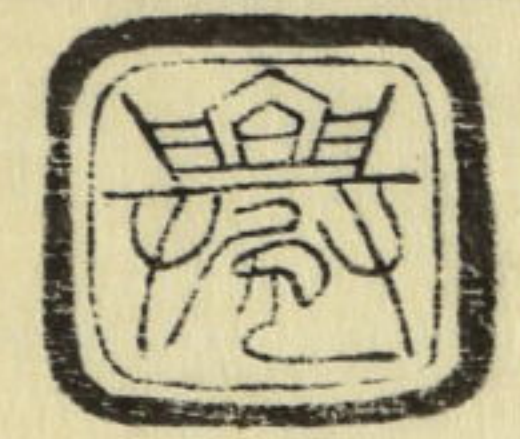
興^{コウ}南^{ナン} 五^ゴ特^{カクハ}聖^{カクハ}と号^{ケル}す 生^{セイ}國^{コク}是^シ利^リ侯^{カクハ}名^ナ

系^{ケイ}傍^{ホウ} 興^{コウ}意^イ 孫^{ソン}也^{ナリ}

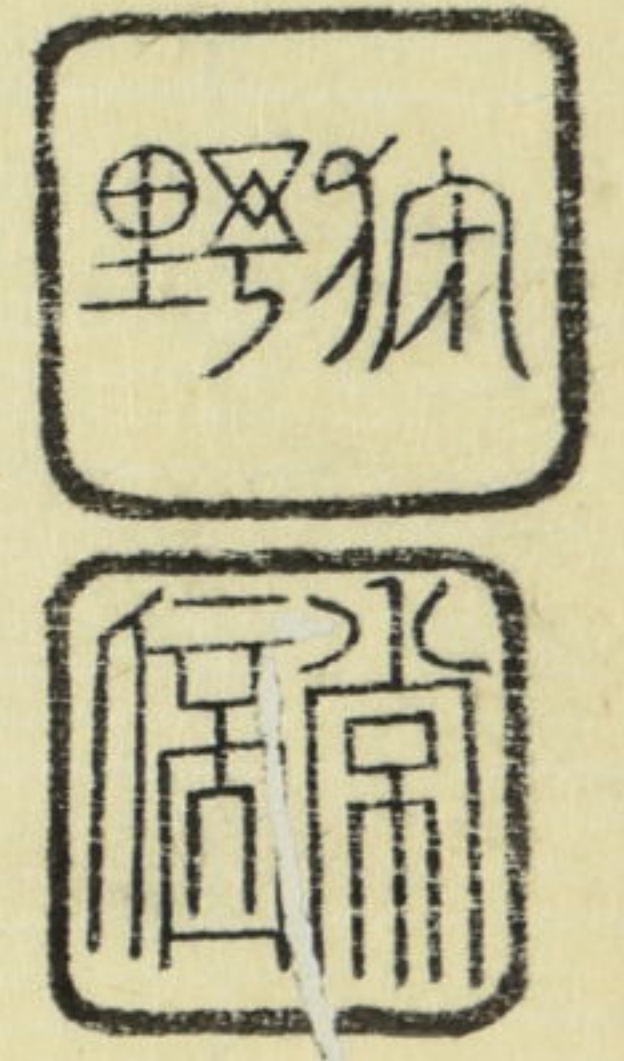
印文



興^{コウ}也^{ナリ} 五^ゴ特^{カクハ}聖^{カクハ}と号^{ケル}す 生^{セイ}國^{コク}是^シ利^リ侯^{カクハ}名^ナ
刑^{ケイ}教^{キョウ}と云^{イハレ}法^{ハフ}名^ナ宗^{ソウ}心^{シン}と号^{ケル}す 水^{スイ}戸^コ不^フ展^{テン}す



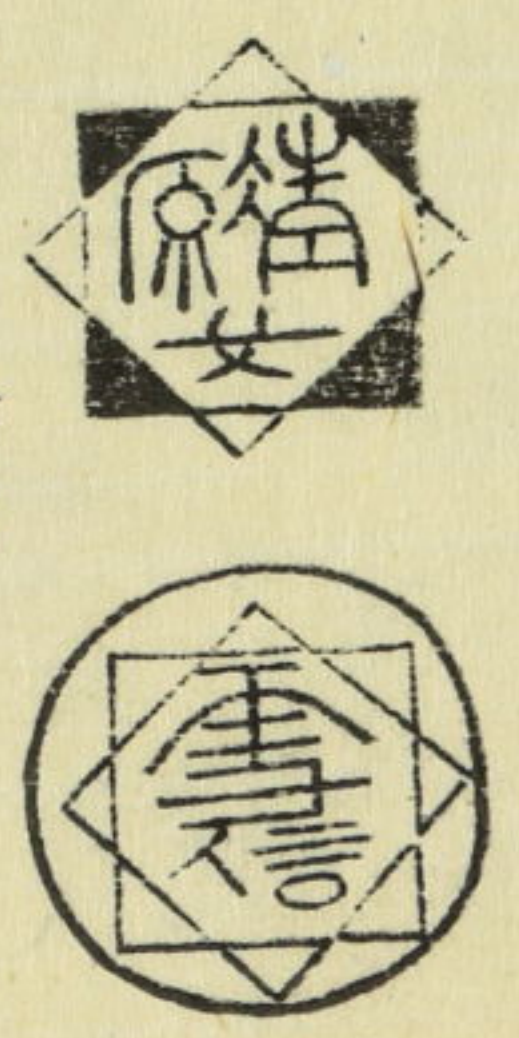
常信



常信 ニキハクニ 女 メ 彦 ヒコ 乃 ノ 清原氏 キヨハラノウヂ 乃 ノ 妻 ツメ と シ あり
此 コノ 名 ナ 亦 モ あり ト あり

清原氏女常信筆下

雪女
印文



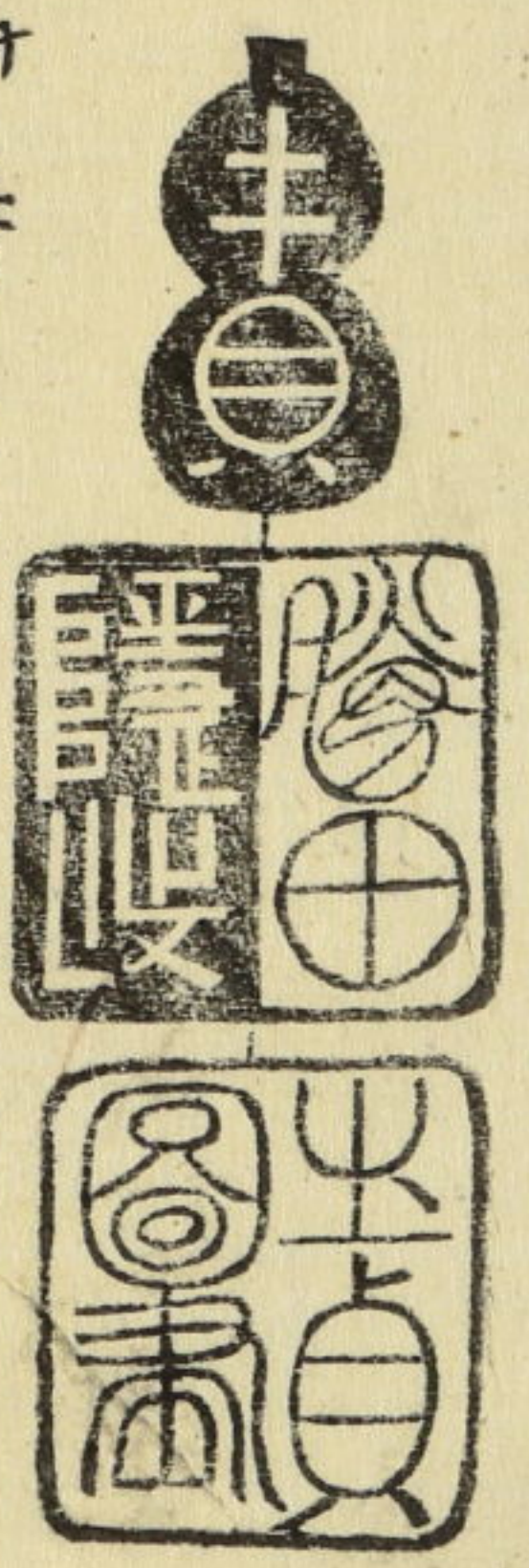
与 ユ 一 ヒト 共 ニ 画 カキ 本 ホ 又 マタ 松 マツ 白 シロ 乃 ノ 云 ク

印文



大 オホ 貞 マコト 乃 ノ 妻 ツメ 又 マタ 竹 タケ 翁 ヲウ と シ 稱 ナヅケ す

体白門あり



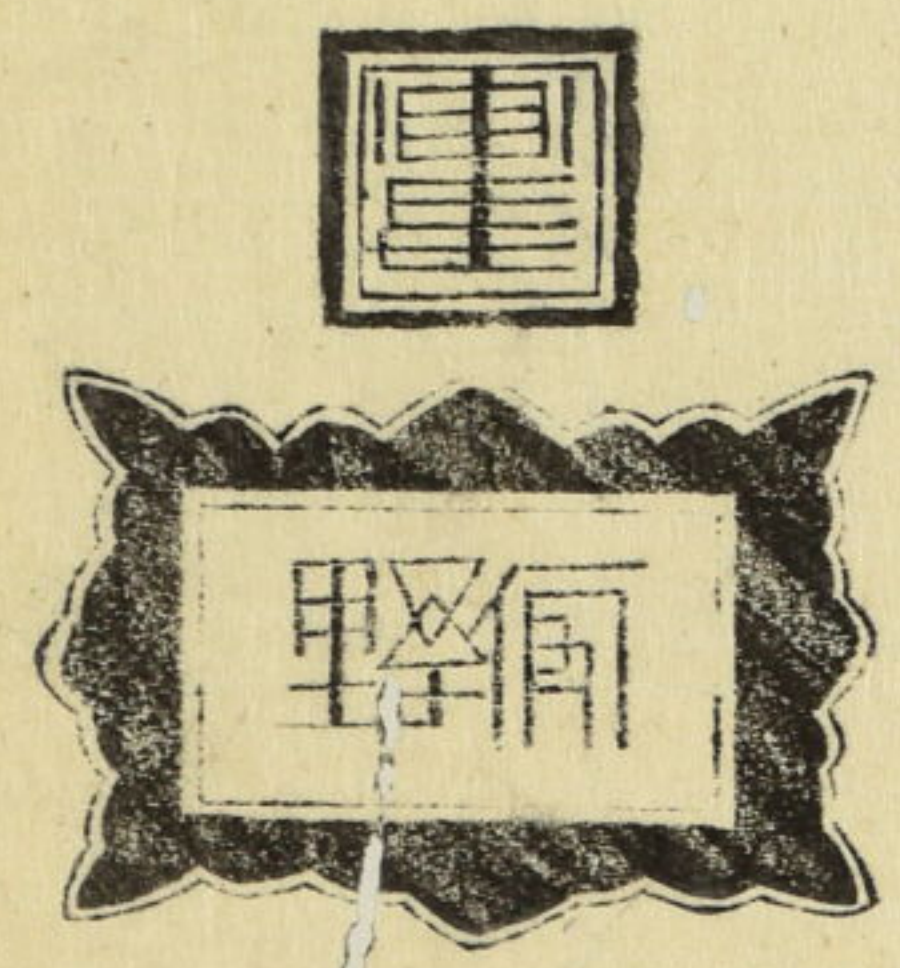
依 ヨ 依 ヨ 夫 ツ ヒナカ 乃 ノ 妻 ツメ 又 マタ 竹 タケ 翁 ヲウ と シ 稱 ナヅケ す
改 カ 作 サ 五 イ 五 イ 法 ホウ 持 ヂ 系 ケイ 仙 セン と シ 稱 ナヅケ す

宗仙
印文



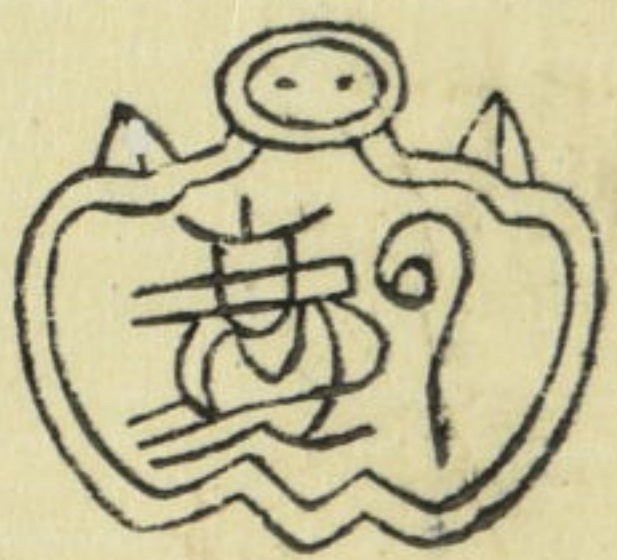
皇 ミカド 信 ノブ 卒 ハタケ 持 ヂ 聖 ホウ 内 ウチ 照 テル 一 ヒト 系 ケイ と シ 稱 ナヅケ す

印文



了教ヨウキョウ六ロク一イチ 俊彦シュンゴン氏ウヂ 传记デンキ 不見ミヤクナシ

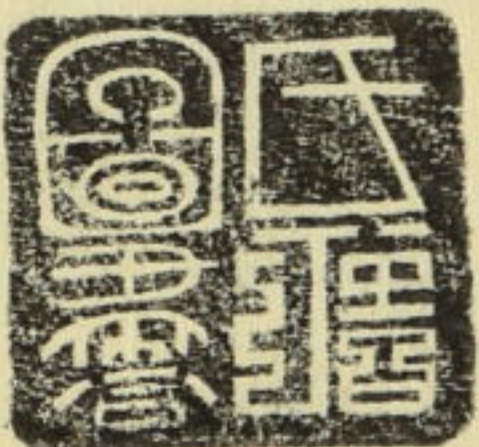
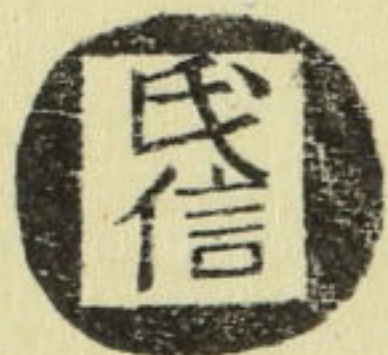
印文



九ク兵衛ヘイエイ 六ロク三サン 興キョウ三サン 年ネン 了教ヨウキョウ 氏ウヂ 俊彦シュンゴン 六ロク三サン 法ホウ后ゴ 友トモ 益エキ 大ダイ 学ガク 印イン 文モン

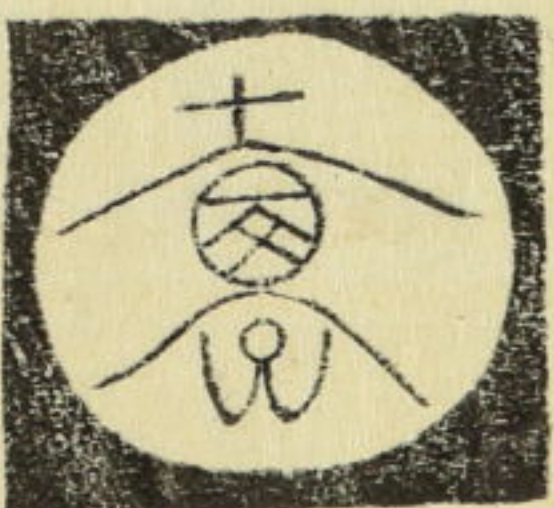
大學

印文



友益

印文

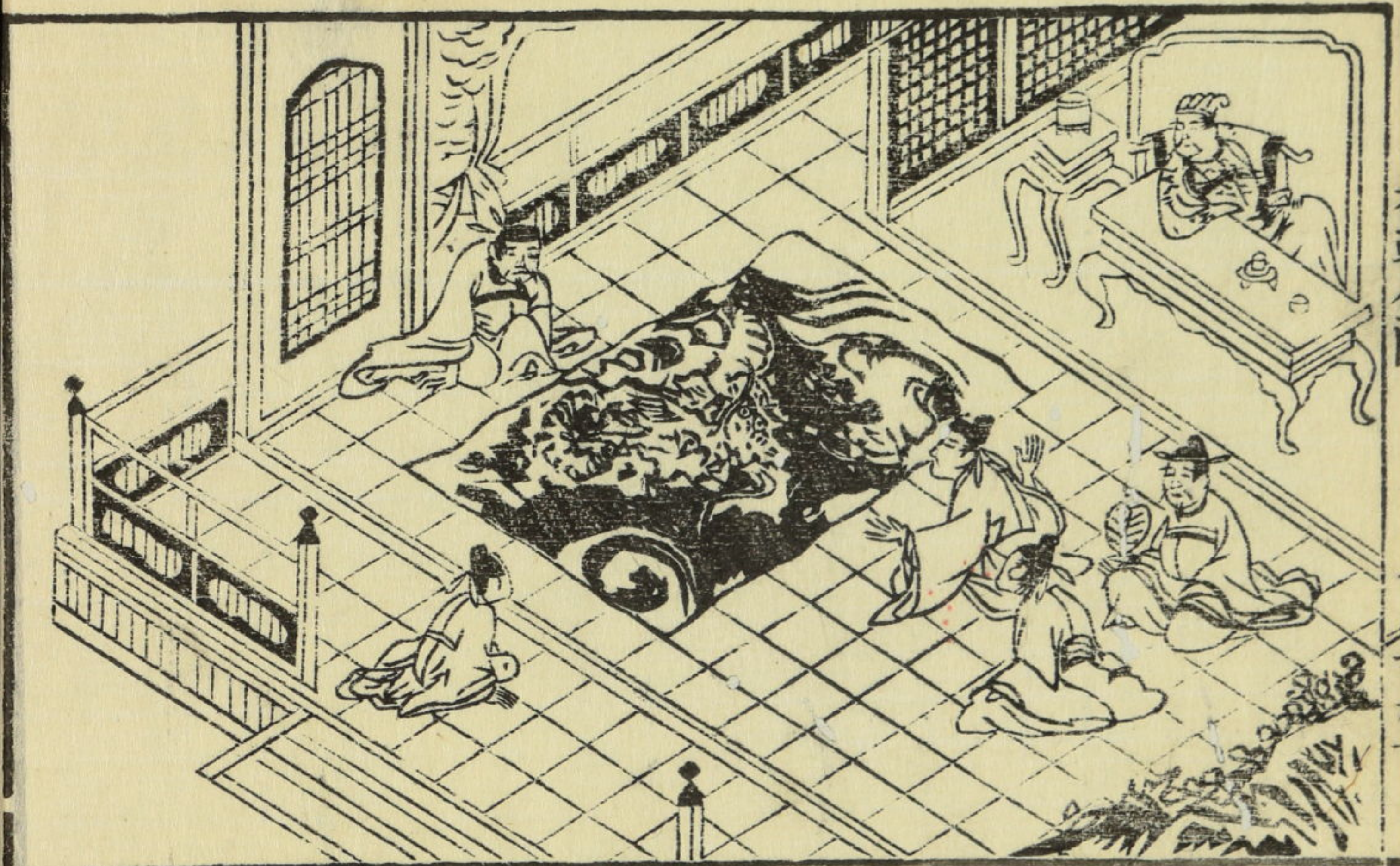


友松トモマツ 六ロク三サン 年ネン 了教ヨウキョウ 氏ウヂ 俊彦シュンゴン 六ロク三サン 法ホウ后ゴ 友トモ 益エキ 大ダイ 学ガク 印イン 文モン

師シ 了リョウ 教キョウ 六ロク 一イチ 俊彦シュンゴン 氏ウヂ 传记デンキ 不見ミヤクナシ
了教ヨウキョウ 六ロク 一イチ 俊彦シュンゴン 氏ウヂ 传记デンキ 不見ミヤクナシ
了教ヨウキョウ 六ロク 一イチ 俊彦シュンゴン 氏ウヂ 传记デンキ 不見ミヤクナシ
了教ヨウキョウ 六ロク 一イチ 俊彦シュンゴン 氏ウヂ 传记デンキ 不見ミヤクナシ
了教ヨウキョウ 六ロク 一イチ 俊彦シュンゴン 氏ウヂ 传记デンキ 不見ミヤクナシ
了教ヨウキョウ 六ロク 一イチ 俊彦シュンゴン 氏ウヂ 传记デンキ 不見ミヤクナシ
了教ヨウキョウ 六ロク 一イチ 俊彦シュンゴン 氏ウヂ 传记デンキ 不見ミヤクナシ
了教ヨウキョウ 六ロク 一イチ 俊彦シュンゴン 氏ウヂ 传记デンキ 不見ミヤクナシ
了教ヨウキョウ 六ロク 一イチ 俊彦シュンゴン 氏ウヂ 传记デンキ 不見ミヤクナシ
了教ヨウキョウ 六ロク 一イチ 俊彦シュンゴン 氏ウヂ 传记デンキ 不見ミヤクナシ

友松印文



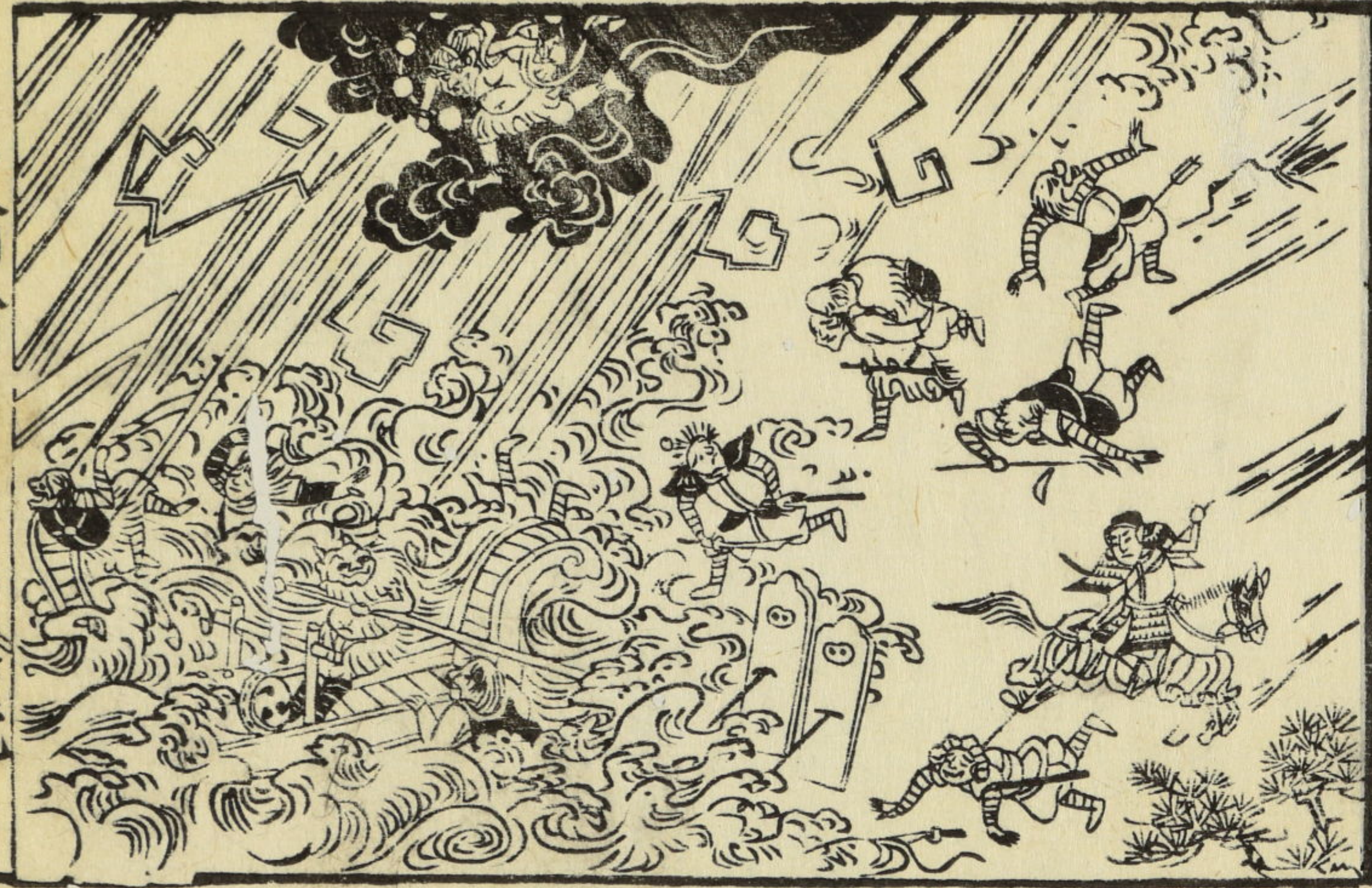


本村丸光 ニ百 江州高生の人
 并に改めはつくを信より邦
 賢志と号すはすはすは
 兼光と号すはすはすは
 元佐と号すはすはすは

拉暉茶園



本村丸光 ニ百 江州高生の人
 并に改めはつくを信より邦
 賢志と号すはすはすは
 兼光と号すはすはすは
 元佐と号すはすはすは



天
地
風
雨

天
地
風
雨

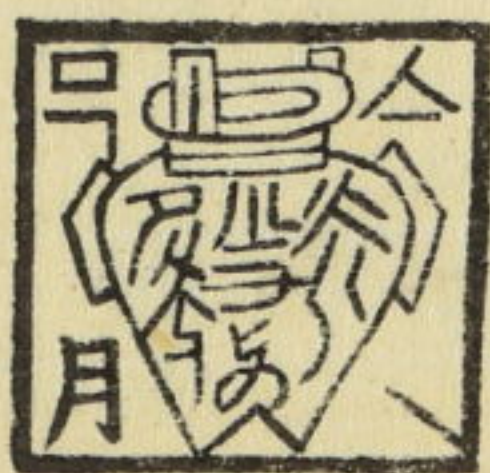
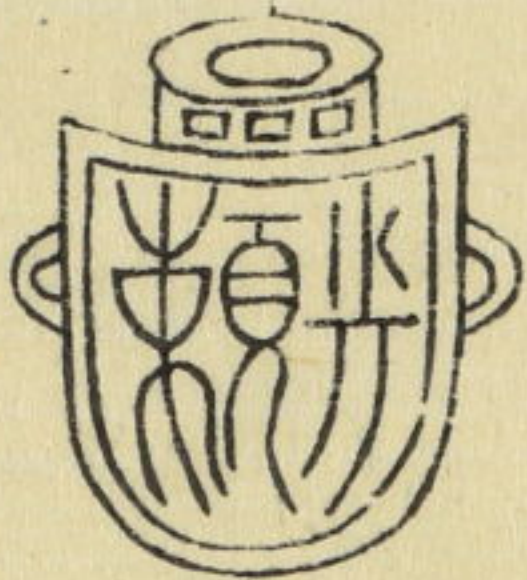
病ふふりくく又くく美と宮
ふせり平ま原年念ふお
ゆふいこれとかやち板小せよ
傳り信れまれり

持山樂三音律ハ光親と号す
女名平養と号り木村永光が
子ありとドの候井より伝て
其長教者ふ獨一担事お
置候わつ候とく台命ふふく
永酒ふ法と又まれと物一
改く持聖氏と号り、修理亮と
号す用事此法もくを正信と
号し、其云云東福寺法堂と号す
天井小古傍の壁が漆とく清純
破る乃跡行る當時此屋長永
傳小指信せしは後れたるらん

病ふゆーくを補ぬる功と云
事かど光親小授くをと健心
古く紙と小信くくこれと天
井小あがーむ板小寄取果原小
よりさ九年とく破るやり今
再興とらふ座小板面小信がけり
龍頭二丈候ゆのり十八丈教
目ふくも切と終内小光親子
修光是より修徳寺修天井の橋
然かあらず板面小あぐく又云
天まち成興復す光親とく
聖徳太子乃縁部公堂修小あが
くむと云云進去乃後行修小
あり橋巷修く修りて男心修
中坊小寄りて是より修修
あり 東照寺修と後城小

かきとく氣師の体やじ州發
志く号と山樂とわくくしお
年中小夫とち英ふりきり
再興ふるぐ山氣波海命と家
里これと家すまは美海甲
内玉橋金銀あり墨痕と跡せ
り所登乃統虎鷹子ゆりま
堂を水乃伝わり入物花倉岩
本まこ水漣入登れ風時と邊り
兜年海く家え乃登月とふ
平生好く捧危とあぐ或は
これとりめ波漢とれがま
矣語あり又古乃後らあ
始く大連相家武と他ま
張氏が帯船家流とんく物
これと山さり或は騎法七

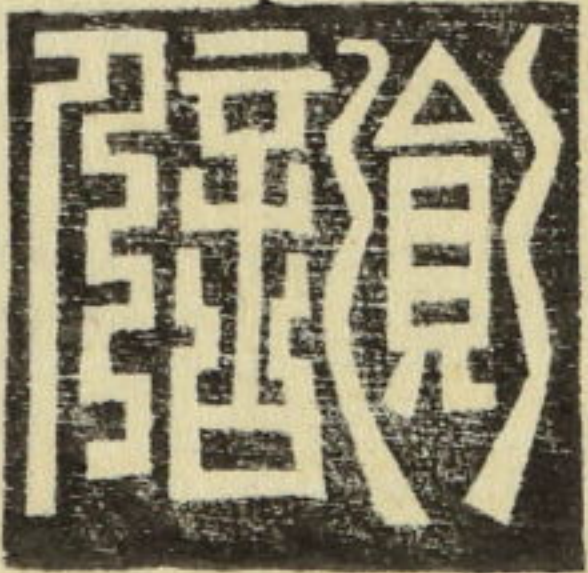
三樂印文



八月下旬病臥して終り
忠がれ世の流播せり
念承て
十廿七

内記六八傳記不見

印文



法橋心海六九傳記不見

印文



法橋山名三傳記不見

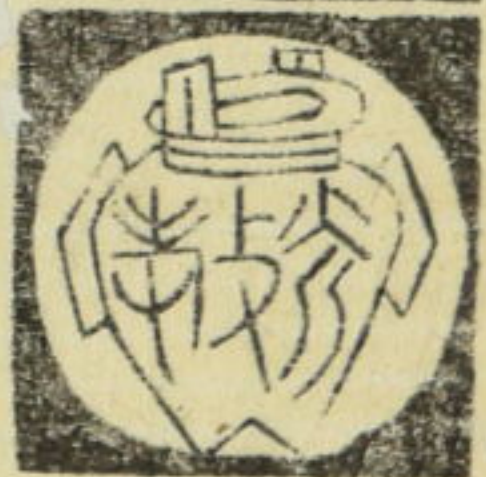
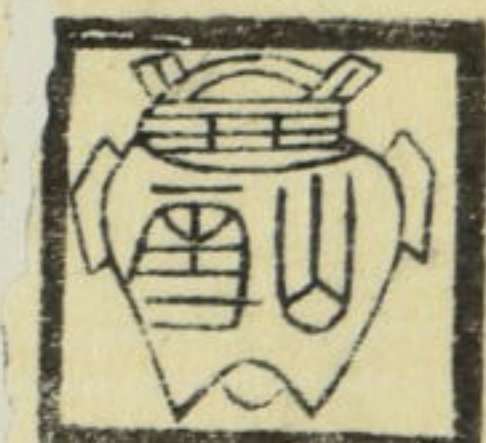
木月

下

山尊

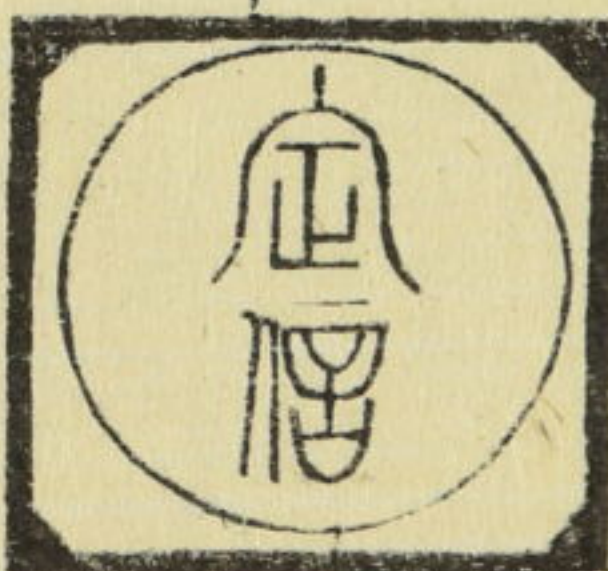
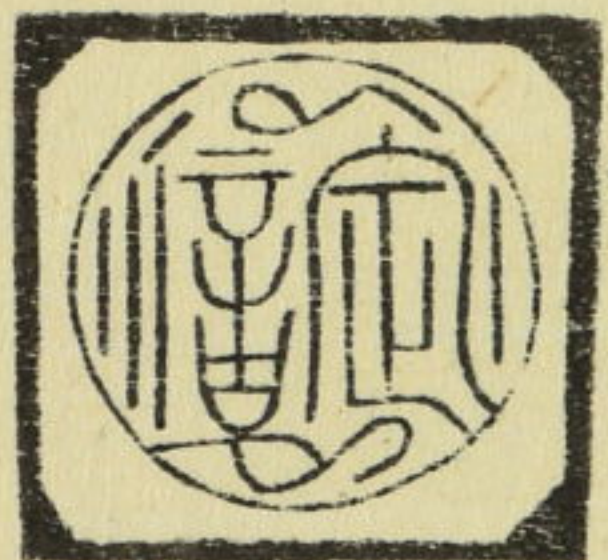
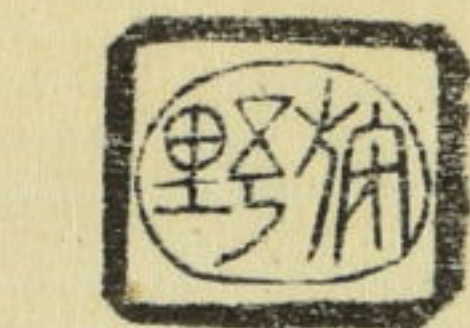
永理

軒定



靈山

養法 文七三音 傳死不見



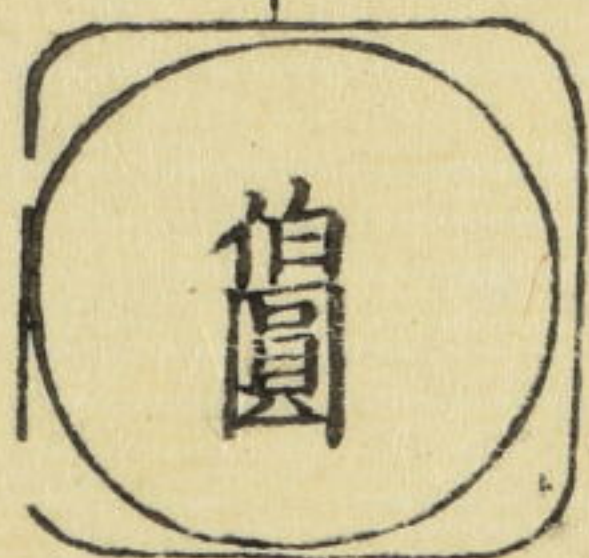
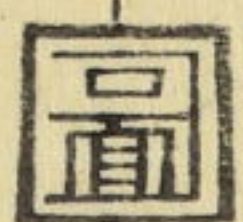
法服肉磨 七三音 傳死不見

印文

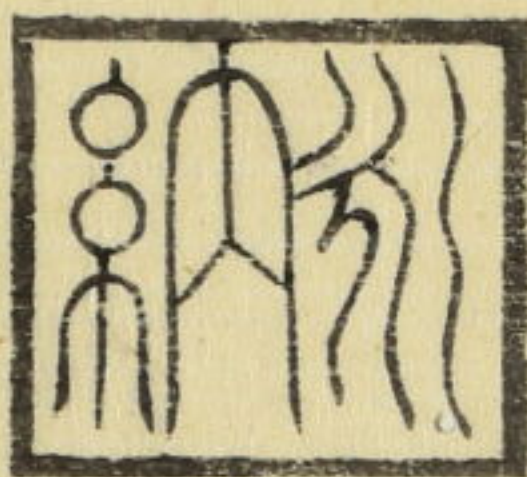


伯圖 七三音 傳死不見

壽



經友 七四音 永納

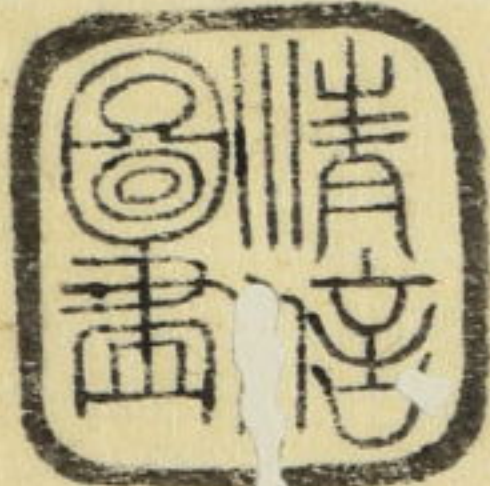


靜



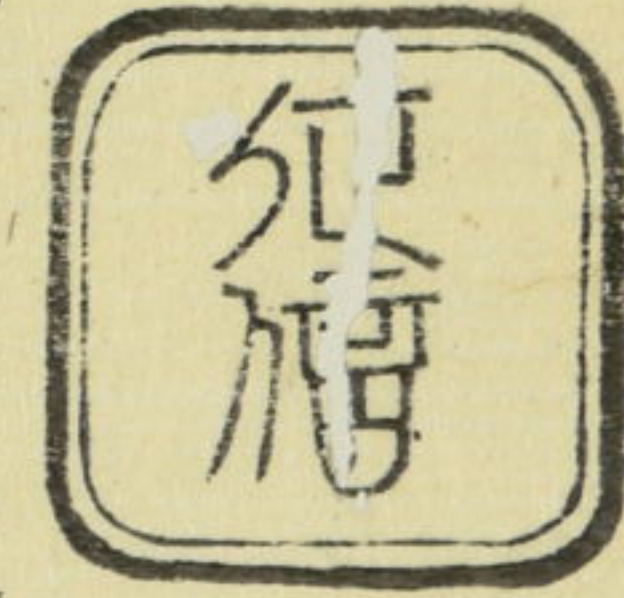
古内 七五音 傳死不見

洞野



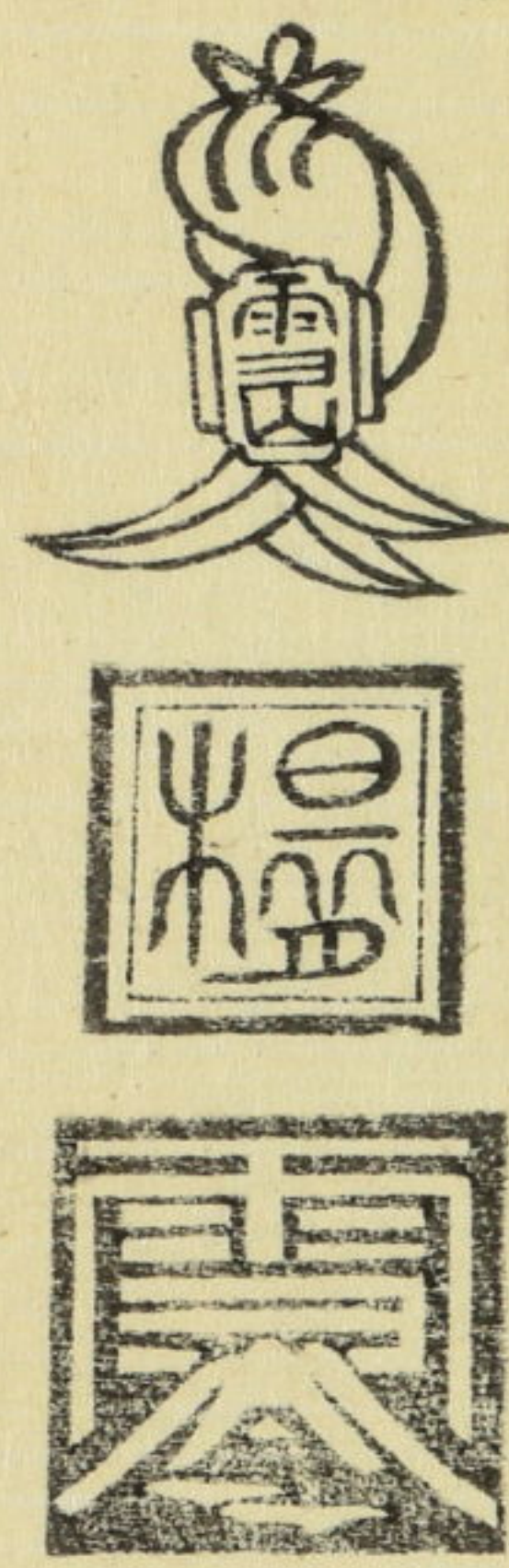
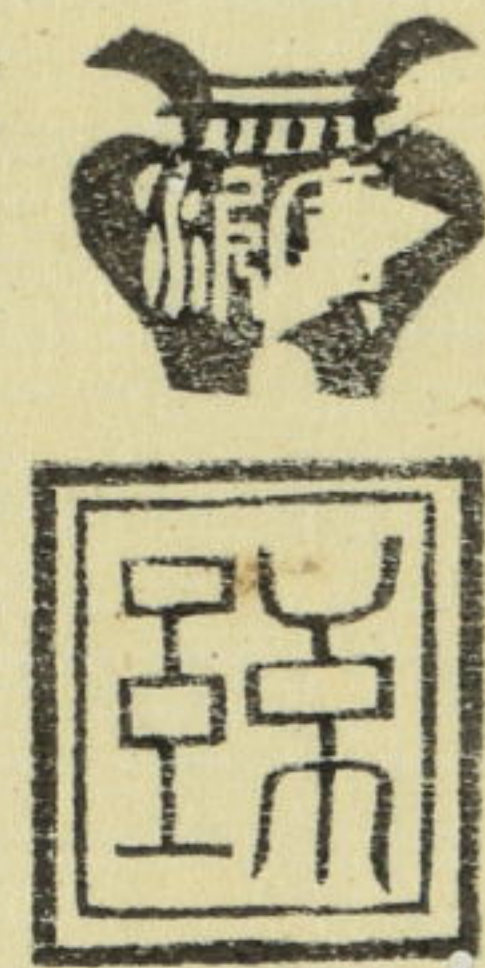
救る肺 二音 傳記不尼

印文



雪山 三音 姓氏と不肥肥前乃人
雪山 七七 乃有子たり

印文



雜傳

僧正 三音 後 七八 世姓官門柳系家

里出仁和寺乃院家ありて
院小僧す又和列美花山柳系院
小僧す信小美花山乃右傳正也
稱す多紙好く古法服え候と
中多づり伝傳並ひ小雜馬瓜
傳す及後乃中ぬ小父登家
ありけり別号あり美花山
乃中ぬ小務虎梅竹及小中
乃乃事歴名紙義ら其りて難
紙ありりめ和奇と和字乃
書と紙並傳く後小と島
書小と心

僧正 三音 宿務院乃弟二世

丹書と好む墨書と紙より可兼



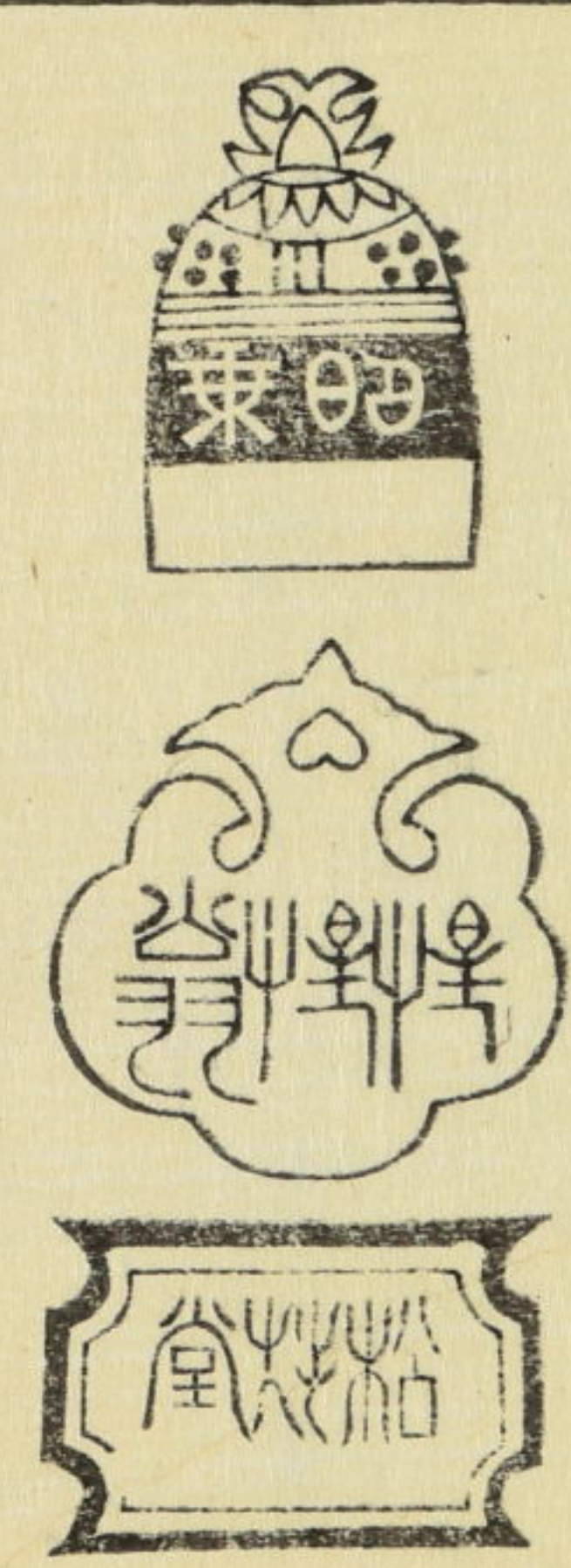
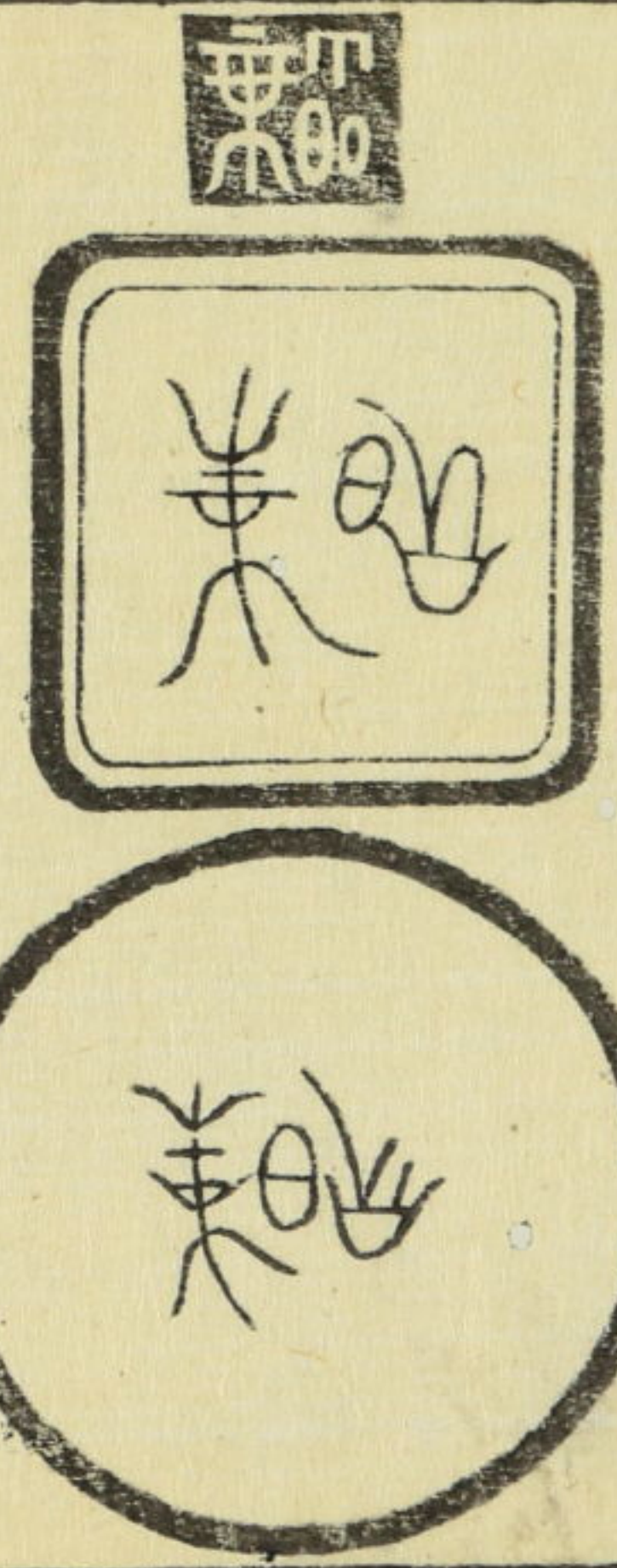
法常亦どもむびくを

ゆかり

法常亦どもむびくを
 流本坊照糸ハ石居ある坊官也
 懼と系と号す中治氏なり女
 与く男山ぬのり島敷とあり
 終小流本坊お住す坊校小方文
 と愛し角かす松花堂と稱す天
 性書と能くゆれぬおとりんせ
 らは居ても又ささりるを本
 流云々遂乃時持登山嶽大坂城
 出く男山流本坊お高居たり
 眼糸とんぬと号んぬある年
 あり角かす一遊林風流あり
 牧溪乃流雲と号ぬくを名
 とゆかり寛永十六年九月十日
 小藏す年二十六又式部卿

と孫す

南山隱士惺翁惺翁



友

顛安田友 八三音

印文



傳陸川八三音 為新海丸列乃人也
元和年中象師小控と控料
乃嘉小急ぐくを之山雪霧と雲
面よりとんお興小急れり
俟ずも是法香舟より出更お
新念あり法雅控電しんて

宗祐三百 山あそとあうくもを
 多穂が風賀あり筆法三百 統三百 統三百
 己妙く元三百 筆三百 格三百 中三百 似三百 たりされ
 大俊英あしす三百 佳三百 小規三百 紙あり
 乃とたり高内探出三百 命三百 たりたひり
 而外三百 疑三百 一は三百 楽三百 ち筆三百 たりと
 とり所三百 為三百 され山あそ花名三百 地ありハ
 美細三百 意三百 ちありりれたなり
 作本三百 血三百 雜三百 多とあうく統三百 勢と
 中三百 あり

系三百 務三百 八五 筆法三百 元三百 信三百 とまありま
 乃山あそ乃信三百 ちよく規三百 縁三百 とあ
 色り
 全三百 純三百 八六 雜三百 多とあうく筆三百 力三百 元
 信三百 とまあり
 正三百 統三百 八七 雜三百 多とあうく筆三百 法三百 元

信三百 とまあり
 江川三百 元忠三百 八 筆法三百 元三百 信三百 とまあり
 益上三百 乃三百 中三百 乃三百 源三百 の字三百 と出す
 至三百 信三百 九 雜三百 多とあうく元三百 信三百 法三百
 多あり

清三百 信三百 九 十 人丸三百 乃三百 信三百 とあうくまあり
 一く信三百 実三百 の名三百 とあうく一り筆三百 法三百
 周三百 多とまありひ又三百 持三百 聖三百 乃三百 處三百 風
 とあうり

定三百 信三百 九 一 筆法三百 元三百 信三百 とまあり
 持三百 聖三百 先三百 正三百 九 二 墨三百 布三百 感三百 とあうく
 筆法三百 元三百 信三百 とまありありありあり
 勢三百 一くく持三百 聖三百 乃三百 氏三百 族三百 あり

尉三百 後三百 九 三 人地三百 とあうく一信三百 とまあり
 信三百 九 四 一く花三百 名三百 多とあうく
 新三百 多とまあり清三百 洞三百 たり筆三百 法三百

本朝... 十...

徒勢元佐より出さるる此あり
 香江九百後庵乃天祥乃像と云く
 仙九百雲花鳥と云く香あり
 山林九七七名不あり雲雲と
 云く玉瞻ふが巻法小何あり
 云くやめれたゆり玉瞻ふり巻き
 うふの暇自性乃教と云く
 雲彩九百二雲一披乃雲と云く
 不み不脚踏美地と云く字云
 巻法め世ありり雲色清潤
 云く巻巻たり或いこくふ
 林長九百雲布容と云く巻法
 去お小何あり



像季莫四 名の月孫河内乃人
 云と香ふふまより作乃像と云
 云り巻巻と云くす
 僧雲池一世系と云くす巻と云
 こと列名山あまびこりか
 雲花山ふ音巻と云く乃厚凡
 像子の巻月巻と云く巻と云
 乃風あり
 香ふ出山乃釈迦と云く巻と云

大明... 百...

拈花ゆゑ聊寄舟中
了心三墨竹道とあぐく筆法三
おどまのぶ抱たり

宗用四 漢人とあぐく筆法三
より出り

墨沢五 舟み小墨沢乃字と筆
法書舟とまのぶ兼筆天祥乃

像とあぐく
孤月六 舟み小周林乃字あり

兼筆天祥乃像とあぐく書舟
が筆意とまのぶ

法忠七 何伴乃人とあぐく筆
山あどあぐく筆法三能まわが

舟をむ雅麗とあぐく抱たり
良海八 けしきと墨傷久丸の像と

あぐく筆法書村み細よりあま
如寺用林ゆ乃契とあぐく此あり

墨を兼筆たりせ小舟あり抱
形

月元九 舟み兼筆とあぐく筆
法書舟より出後墨を法推と

貴を志のあぐ
宗紫四 福深美とあぐく墨三

書舟とまのぶ抱たり
宗継十一 獲熊とあぐく書舟と筆

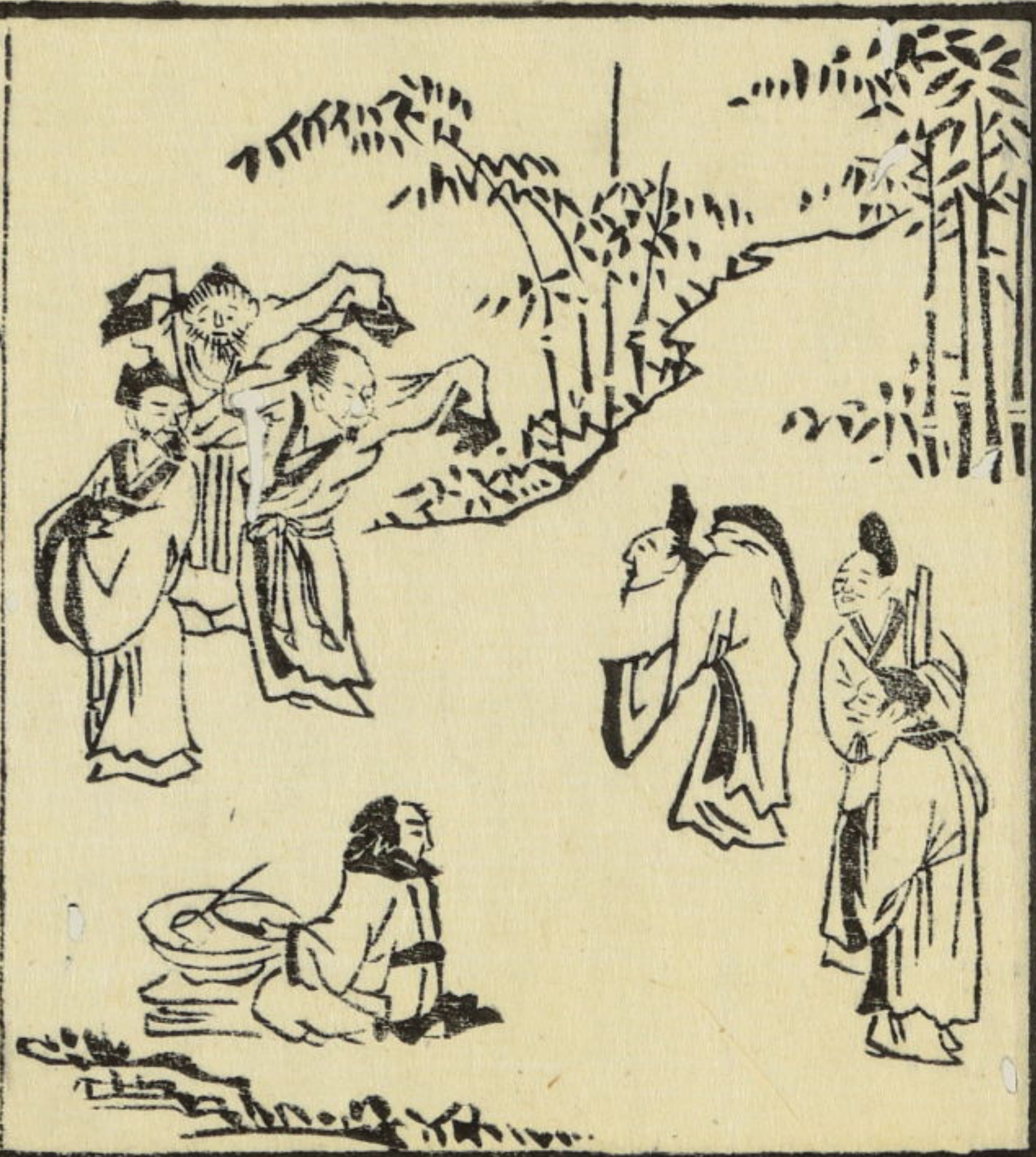
意とまのぶ抱り
舟波十二 十牛墨とあぐく此あり

舟墨三 兼筆とあぐく書舟より出
筆法又佐ふあぐく

祐月十三 墨山あどあぐく書村が
筆意あぐく

巴泉十四 布袋とあぐく墨戲

用あり等と云ふと云ふは此
 條よりと云ふは此條より
 長谷川水月四百乃徳並小難
 と云ふは長谷川水月乃徳並小難
 カトク秋月小お徳なり
 長谷川水月乃徳並小難
 七段と云ふは園庵ありを法
 力清舟と云ふは徳美なり
 長谷川水月乃徳並小難
 と云ふは長谷川水月乃徳並小難



又又小徳流ありを徳美なり
 長谷川水月乃徳並小難
 ありと云ふは長谷川水月乃徳並小難
 長谷川水月乃徳並小難
 長谷川水月乃徳並小難
 長谷川水月乃徳並小難

徳乃段坊列山口を雲居る小原せ
る内乃ち号と月ひたり名を
備わたり雲居る姓氏あり
み必定あり併し為徳乃商と

備膳西上ノ人四百雲居る乃中
なりくく和奇と極す延暦

集ふありく和奇思茶
乃徳とあぐくそ果本徳

乃物ありいし和奇延暦
備親花西山三結二世乃徳

乃乃依服大地の別親花のあぐ
ふかりけく和奇とそふ

そ和雅世く推集ふ載伝り
ぬ人冷泉九泉民約つ入女あり

常小登持とくあそ毎日何返

徳とあぐく所業とせつじ
洋小本的發心集ふあり

文勢乃忠二款也十六種漢乃
徳とあぐく皆中氣乃風成そふ

乃乃場あるそとあん
あらぐこそ第徳和列三編中

乃場あるそとあん
乃金法乃三畫とくす意こ

可カ録と律と月とす徳れ也
そ人時代月く徳法も又

別格なり本國ち乃什物小徳後
三十二編あり徳後小曰正平七年

正辰三月七日登之金乃徳と
とく徳と平の有徳後村上徳

乃年号あり徳れ乃徳列乃

人ありや

法所著 法橋小教す

山釋 乃徳の良象がそぐし

書教書 小康安二年二月廿三日

之法橋 乃徳の良象がそぐし

小わりの本教古流乃ちあり

法所著 法橋小教す

徳後 乃徳の良象がそぐし

大支法眼 亦表

去依 乃徳の良象がそぐし

表月 法所著

終現 亮

右ウ入 乃徳の良象がそぐし

縁家 乃徳の良象がそぐし

縁吉 小あり

慶 乃徳の良象がそぐし

徳 乃徳の良象がそぐし

孫 乃徳の良象がそぐし

益 乃徳の良象がそぐし

徳 乃徳の良象がそぐし

徳 乃徳の良象がそぐし

何 乃徳の良象がそぐし

乃 乃徳の良象がそぐし

小 乃徳の良象がそぐし

乃 乃徳の良象がそぐし

乃 乃徳の良象がそぐし

乃 乃徳の良象がそぐし

乃 乃徳の良象がそぐし

乃 乃徳の良象がそぐし

本巻公終す故小後元天祚の儀
ありの本巻と用ゆまおまの勢
ふあらず巻法軌造しつて九法
あらず終つてこれ終るなり
聖威の儀く河内西天聖の
ちひとこれとあり

新法法眼四百巻ありあゆ年

中乃人あり

巻四百二 新法法眼四百がや子あり

巻名あり亨祿年中の人あり

吉次郎四百三 巻名あり子と巻と終

偽智海四百何許人となりす梵

換乃本巻と用く不執巻及

び二巻子とあぐくあぐく奇怪乃

敷成と換む巻後ふと智海七

十六巻の巻四年乙卯十一月一日

武ハ不執巻十方神祇儀とあぐく

とあぐくあぐく雲宿何列あぐく

中乃ありこれとありとあり

偽巻四百五 文祿年中乃人あり

巻法眼と巻と目とあぐく巻名

巻名別たありは巻名とあぐく

と巻後あり山法眼何海巻と

とあり今二巻あり巻名ふとあり

巻人一位四百六 巻名并巻名雅の巻名也

天性巻とあぐくすくあぐく巻名也

あぐくあぐくとあぐくあぐくあぐく

その巻名あり

巻名あり巻名あり巻名あり巻名あり

年十月巻名あり巻名あり巻名あり

大用巻名あり

月攝攝政 光昭著也 攝政者
光昭攝政 嗣後攝政 亦系昭也
攝政 昭乃 昭乃 昭乃 昭乃
昭乃 昭乃 昭乃 昭乃
昭乃 昭乃 昭乃 昭乃
昭乃 昭乃 昭乃 昭乃

武田 武田 武田 武田
武田 武田 武田 武田
武田 武田 武田 武田
武田 武田 武田 武田
武田 武田 武田 武田
武田 武田 武田 武田
武田 武田 武田 武田
武田 武田 武田 武田

軍 軍 軍 軍
軍 軍 軍 軍
軍 軍 軍 軍
軍 軍 軍 軍
軍 軍 軍 軍
軍 軍 軍 軍
軍 軍 軍 軍
軍 軍 軍 軍

日本 日本 日本 日本
日本 日本 日本 日本
日本 日本 日本 日本
日本 日本 日本 日本
日本 日本 日本 日本
日本 日本 日本 日本
日本 日本 日本 日本
日本 日本 日本 日本

待野家累世所用画法

山水畫法之和序

一、凡山水畫、先下筆、生、定、然、乃、加、
ぬ、り、又、尺、寸、の、ま、は、れ、平、淡、を、ま、さ、
乃、起、こ、し、海、の、波、雲、乃、第、一、筆、を、以、
く、爲、成、好、く、も、景、乃、投、映、玉、洞、と、
よ、び、ま、る、然、眸、た、り、一、夏、種、る、ま、也、
と、い、ふ、ん、の、淡、彩、乃、精、之、成、心、を、
と、好、ん、だ、り、た、り、續、舞、拳、蓋、子、
眼、が、と、た、り、お、の、ま、る、縁、乃、精、意、を、
引、く、後、成、好、く、お、の、ま、り、と、の、く、
風、格、あ、り、く、一、家、と、あ、す、ま、か、
階、は、お、不、用、る、お、あ、く、佳、く、
扱、初、く、と、れ、と、あ、す、

人物畫法之和序

一、世、後、人、物、成、あ、ぐ、に、精、神、
法、乃、中、小、あ、り、世、上、名、を、
神、あ、り、く、と、れ、異、宿、た、り、
世、あ、る、と、れ、と、す、り、れ、牧、溪、
玉、洞、乃、り、と、る、ま、る、梁、楷、
李、於、眠、乃、と、れ、宋、約、一、か、り、
李、安、忠、乃、於、眠、乃、り、出、く、一、卷、
あり、猶、子、昂、乃、り、淡、筆、
彩、雲、皆、精、細、小、大、描、筆、
交、不、淡、墨、と、る、と、せ、す、凡、て、
儼、ハ、三、首、と、り、く、と、れ、不、附、す、
故、不、夜、夜、曲、と、れ、或、儀、不、
て、神、一、家、と、あ、す、

天明書院 下

儼くふこれと宗とす

花鳥の画法 付鳥獸

一 前人の如く鳥獸草木乃石と
知とのり後乃るもの母と云く
結思と云ふ事す色を畫筆
ぐとてこれ其畫痕と云ふ
墨を畫の仔細よく描之と云
陳常又飛白筆と云くす
筆の牧溪よく濃墨と云す累
世毎不用る所なり移文の儼
宗乃の筆勢昂李安忠續蘇
峯筆のなかり鳥獸の宜和反乃
此筆毛益但月山が筆意
そ此筆と云くこれり墨の
既升後乃其勢興將古筆

上世の如くも筆の傳は
陳可持の愛化乃云と云る
て大藥と世乃法と云はけ
そ神妙天成なり此の
て傳様しく一筆教ふと云
てそれ形似と云くひろく
ありたり

右の竹野の世、秘法と云ふ乃
形を以て描寫しこれと云
こありこれ小序しく此後小附
興と云ふはかくのしと云

倭畫布墨之法

一 花鳥の和墨の法は情を
染ありれかり所謂倭畫
かより源氏物語より及び可仙

お社れ縁起をもつて是を形り
お来き法もさくそれゆゑと極
ひりりれはるゝ感字とあぐらと
それをも天井とのぞいたりさく
とぞそれ梁間小指のくひりく
幽窓圍門のりやと何れもや
呼字平朝の影を思ふもや
と知ぬるや 中意のりやとあ
かくとらんるに極間もかひで度
あさくそれ中におあつゆり人物
おととととつりやとあつらん
とさるる故おるれつりやとさ
とさるる又雲遊と雲中におあつ
上下小とくを遊と定とつりく
縁とつられたとわく雲中にお
く松樹とさく教枝とつかして

一極り 専縁乃 精新と何れも
奇ゆかか子私置れ法わりり
松樹聖縁おのれ人物夜級を
官位小とさくおるる一財の
早子縁と山におあつて
名性樹等はいさくつ漢字の
文と用ゆりれ孝忠の林の
とつられたと用ぬる奉子
がとつられたと用ぬる
級級細意とさくつ織藩なり
かあつてつられたと用ぬる
あるは漢酒平法乃とつられた
ありとつられたと用ぬる
取方状それ等乃とつられた
登障小極あ極の法式

日本書紀

一 凡そ庭とありす乃次第の純雲
と云ふれやす山あり作あり
淡彩とすす云ふて人物
作あり濃色と終とす云ふ
云ふ花鳥作あり扱鳥
大樹あり云ふこれ大なる事
とあるべし

一 山ありのて殿中乃上段と
す人物ありのて殿中乃中梁
あり花鳥ありのて殿中の下段
ありすを殿とありのて庭間乃
中にありす或の全殿を橋上段
より下段にありす極彩を
とありのて雜色にありのて
ありのて宜ふ云ふありあり
云ふこれと云ふ事あり可あり

是一法乃法あり

屏風歩障あり云々

一 大抵は季とありのて要とす
山あり人物花鳥皆同ド山門
樹あり大小乃あり云々
謂六枚の圍屏これあり式
圍屏の大梁大なる事とあり
一 歩障の表裏あり云々大梁大
なる事ありけし一膳ありの二枚
圍屏の格あり

掲戸乃為格

一 あり云々乃入り花鳥を
あり云々此法を云ふと云ふ
雲あり後世に分り云々

の大明寺集

大人於大香虎柳フクリトウ子等の語を
用安ふるをカク一板面イタのハシ目
みくハシ脂ヤシのハシとカクまハシ一

桐子扇キナシヤウ

一曰季乃花と云がれた芋瓜芋虫
とあるべし大疎けおふるす

扇面乃る法

一 扇幅ハシ扇ハシ ひとこれ者乃乃
扇幅ハシ扇ハシ 扇幅ハシあり紙扇あり和
乃亦之禮節レイセツふたがふり此
一 袷アサギ扇ハシ 官家不用ゆ又目も
袖アサギ扇ハシ 官家乃云達を執これ
と扇ハシ所謂イハレ之服乃内これと持
て先例とすこれ扇面ハシは多

秘置ヒツク扇ハシ乃ハシ之ハシをハシ一
扇ハシ色ハシ和ハシとハシまハシくハシ扇ハシより大なる
いたし一ぬれ古へより扇ハシは

押絵オシエ

一 古来より十二支乃あり又十二
月乃花多又仙人センニン禪ゼン乃ハシ祖師ソウジと
多ぐハシ花多山ありハシ作ハシたハシりハシと
そりハシとありふたハシとふ

扇面材ハシのハシ之ハシ

硯イン之ハシ法

一 硯石インシタ 古より用るところの長
門カド下カド乃ハシ実ハシより出ると上ハシと
至ハシ作ハシ色ハシ世ハシをハシ石ハシ扇ハシのハシ機

日用扇
下
扇

石まればなり故ふ今もあ列文川
より岬の紫石と上ふとよりなり
石西流ふとく丸温潤なりこの
微溼と生す

一 青石 古より生むる所の近
江玉の傍乃る石の西の境
嶽乃る産石佳なりそ外亦こ小石
石あり去作海石程美なりこれ
これとよりもの年の三月三塩年
より河原流くぬ産ふとくこれと
よりたち此石命とくみより小
とより
一 尾硯 其玉は熱湯美美乃
産流ありと之を流る下流あり
中流よりと東大古乃古尾あり

されたまふとかりの産やて用
るのこころざられこ

又いつ産乃尾羽産乃尾と云
はくそ産ととと約より東城
山岩これと月ひらと云つと産
産尾とつとあり魏乃曹操とつと人
羽産と云産成産と云地小供
年産と世頃方び産と云ま
後土人地とほりてそ尾成産と
是と産に他りてと一なり
硯乃其産成産尾と云あり

一 青石 古もこれと記されら
り下産物乃るつと産と云とく産
硯と記と云とれあり
一 瑪瑙石 一 白瑪瑙石
一 紫磨石

本草綱目
石部
青石
瑪瑙石
紫磨石

一 常石

石に勝ふ白の筋あり

一 青磁硯

燒物なり

一 漆付硯

燒物に漆あり

一 丹紫

燒物に布袋を穿て

一 石服

石乃磨くとく乃物

一 家石小入乃目 此物小者其乃

一 石乃磨くとく乃物

一 磨石

石乃磨くとく乃物

一 石れんよの物

一 漢墨石

是も墨あり

一 石れんよの物

一 石れんよの物

一 石れんよの物

一 批把石

批把石あり

一 批把石

一 批把石

墨

一 南都墨

和列奈ら此産物

一 奈ら油煙と稱す

一 油煙と稱す

一 油煙と稱す

一 油煙と稱す

一 油煙と稱す

一 油煙と稱す

一 油煙と稱す

色を色極英潤なり今用ら
る乃箱の法と奈ら墨乃どく小
洞製す世産墨乃法と知く
るんと洞合せると亦佳ありこれ
墨自くくらんゆうとあり今
乃油製ぬ胡麻油と上品とす葉
種次とす花胡麻と又と次とす
灯心一筋とひく極と二とド
印と極と次と洞紙の産紙乃
膠蒸と引らるる今くお懸す
産墨 新志記を報る古
こは報なくとくらんゆうと
級かし文家より和漢の法
と見らるし西のひと墨小なる
いかりとれた墨ハ紙中とこれ
た紙小なるすと知る

一 牧溪墨 是ハ牧溪と名ふる
一 槌乃墨 同三ノ文程ふる座陰
遊なりけ墨沈房和南不掃也
松花堂へ法より一と小松花堂
は墨と以て強と書ふゆへ松花
堂乃強ハ墨と云ふらんやうに口
傳るれよりれあり

筆

一 冬麻毛 夏麻毛 梳毛
前鋒毛 けし前鋒と云ふ
背毛と用ゆを世書をも乃大字
よへ前毛と用ゆ毛もつて丸
大まめしと有用なる小まめし
皆それなりと云ふ也
はしと云ふれれと高の用ゆ

刷子 絵巻のけのりなりみ麻毛

とびくこれとゆい一寸式すより

又すゆいし又又度さ大さけあり

膠礬並糊刷用

藁糸 其糸若くは枯くうく毛

と掌くこれとつこ子大小とす

併一年と強くこれと用りやう

あしく可なり待せ家代く

お侍ふり物所伊永徳が藁糸を

けし指搦しやす小値あり

檜糸 俣小云焼糸たり和形

くら糸かきやうり檜木のう

くれは活木と解りりゆ

紙

鶴印紙 紙糸紙とと品す

毛生瀬とす或は毛邊と云ふ

細粉ありくうりかた粉と

除く生瀬とすた小紙紙小

及す

唐紙 官紙と云く上品とす

云推源子云唐紙のすこれ

紙く舌紙と云るる長紙あり

毛面厚きめと云地洗あり

物これと云ふ紙一丈の長

紙と用ゆあり白紙の雲と云

唐紙の雲白と云あり毛と云

知ぬ毛一雲と云は紙と云

みより小光くさるる毛と云

英濃紙 毛と兼紙の紙あり

毛と云ふ人た見の毛と云

とすうく膠礬並糊と云

紙糸紙とと品す

上田少所傳要品ハ初長年と云
 てこれ少所之控會一々乃ら小
 抄などあり
 畫續 源自織細中々戸賦
 如く之傳ゆゆと編部あり
 其控用と云

繪具卷后

古一原順水名類原水海小島後
 具乃經居之新給れ在至世の本
 財と云付ハ其小脱るるゆあり
 仍く近世畫家小者用らるる如
 とあり一々之似攝す
 傳書 傳居小所傳令書あり
 膠と令とこれと田少藤中々く
 沈く膠と本等す其とて名傳

と云くこれ等しく之と能と下
 これと云く指く解書と抄と
 傳書ハ抄一中書よりありと
 本系小書よりハ一々長年中
 抄列及田井坂山乃中小抄と
 傳書と云く一々とあり出せると
 け山ハこれ等ハ傳書山樂小書
 本乃標地なりと云ハ此山樂これと
 つくこれと云開考長く小書ハ仍く
 朱中と山樂小抄より自今以後ハ
 之等ハ此と云一と云はる今此
 ことと云とありハハハと云
 之のく傳書ハ傳書乃中より
 此抄一と云これと云ハ二と云此具ハ
 及田山乃卷揚らして傳らるる
 傳書 和名抄小本等と引く云

緑青一名ハ碧青と云 膠合
これを用ゆ 膠法と云 赤練青
月一 緑青乃ちうらうりの糸
光の青 中巻の糸 臭あり
控く 緋の糸 大科室
膠とあはさく 糸とあゆ
和朱 膠と合さる 子丸 微あり
腫る 糸の糸 糸魚小 柳の糸
る糸乃ち糸なるなり 又 糸
て朱 糸なるなり

丹 中巻の糸 糸の糸 糸の糸
光輝あり 膠と合さく 糸の糸
糸色 糸の糸 糸の糸 糸の糸
の丹と焼る 糸の糸 糸の糸
法 糸の糸 糸の糸 糸の糸
綿 糸の糸 糸の糸 糸の糸

云 後来乃ち糸の糸 糸の糸
脂あり 糸の糸 糸の糸 糸の糸
糸の糸 糸の糸 糸の糸 糸の糸
糸の糸 糸の糸 糸の糸 糸の糸
糸の糸 糸の糸 糸の糸 糸の糸

雌黄 後来乃ち糸の糸 糸の糸
膠 糸の糸 糸の糸 糸の糸
糸の糸 糸の糸 糸の糸 糸の糸
糸の糸 糸の糸 糸の糸 糸の糸
糸の糸 糸の糸 糸の糸 糸の糸

胡粉 様中 糸の糸 糸の糸
糸の糸 糸の糸 糸の糸 糸の糸
糸の糸 糸の糸 糸の糸 糸の糸
糸の糸 糸の糸 糸の糸 糸の糸

これより粉部にて膠と加ふ
 膏より程煉れどくみくぬ
 く小蒸ふとく入伸く用
 黄去 膠と合せず使し用する
 一と一膠と加ふあり
 形を切り 益小蒸去へちし膠と
 此月ゆわ明粉と和しく使し
 膠脂 倍懸支とく小蒸く
 本薬材本ちり照響とく
 煎一これとくこれの
 と出とく ちやちり花糊粉と
 くのちりを粉雲乃とくこれと用
 金箔 打片 ちり花糊紙と
 微油かちとせこれとく一て板
 これと厚肉漆子の上小蒸とあり
 を地汁いぬのとちり膠と加

くこれと押おり

報簡 金箔小同くこれと加す

金泥 金箔とちりて膠小和し

これと消す ぬき中お於て

指張りのとこれと摺り同敷か

一 膠光紙と出す

報泥 金泥を切りて消す

切油 倍小金報乃粉子とく小

小麻皮とちりて膠汁と小蒸る作

かどつくとこれとちりてこれと膠

蒸山椒小石とちりて併ふ

墨 諸法にちりてこれとちり

あるひい綿布をちりてこれとちり

墨と小蒸とちりてこれとちり

終 畫書小蒸とちりてこれとちり

正へくは日おあてて晒すは
 小的粉をかり火をゆくと
 なる粉とやいへばなり
 濃湯のたりに用ひたり
 次は好膠とてし之を細く
 濃化する書書ふま秋の膠と
 礬石及び夏月より照る礬石
 一冬より照る礬石
 雲母 大抵用る云乃其の粉油
 菊の花と小徹しく雲母と
 てまかりちるれ莫光とす
 此とてくはしは白梅乃と
 とかやくなり

調合也

煨炭 胡椒と主として脂
 煎る或は綿煮とて煎る
 無事乃具と云なり
 煨炭 胡椒と主として朱と
 られと朱乃がとて濃淡の
 相和と加へ丹の煨炭
 と入る合すこれと推文乃具
 云又此小肉を乃具と
 白紅 胡椒と用く主として
 交と螺貝と炭を入たり
 煨炭 此は瘰癧をこれら
 調合自和ふりて色を
 枯葉 朱の具の上と煨炭と
 これとぬわくを主として
 煨炭 胡椒と主として朱
 と入る濃色なり

淡柿を 胡椒を加へ黄と用ひ
 淡をうふ粉をく流すとす粉
 しくあくす或はとう一朱を加
 られ要目ふちうぐさり 是と流
 樹をとりり
 桂皮を 胡椒とく人朱と
 入ふ入ふ茶とくふこれと茶
 乃れし
 粟を 胡椒とく人朱とこれ
 をとふ綿 胭脂をりたり
 茶を 煎ふ茶福と云是なり
 煎を煎り 胡椒とく人朱と
 入ふ入と小雄黄と雲て又と
 淡黄 胡椒とく人朱と加
 へ入るるふありこれを雌黄の
 具とす

前黄 淡保を白梅乃と唯
 黄と雲てこれを雲
 淡黄 胡椒とく人朱と加
 へ入るるふありこれを要目ふ
 られとこれをあさだの具とす
 茶を 淡黄乃れの上雄黄
 のくこれを度す
 飛を 煎ふ茶福と云是なり
 煎を煎り 胡椒とく人朱と
 入ふ入と小雄黄と雲て又と
 淡黄 胡椒とく人朱と加
 へ入るるふありこれを雌黄の
 具とす

得計 庚子若孫と云あり
乃汁と云かり丸後深洗法を
粉腫と云す

朱と雌黄とこれと合す胡粉
作黄土 解つる去朱標と云あり

膠と加ふる或は黄土と加ふるを
生潤脂 是実ハ綿潤脂あり

膠と加ふる或は黄土と加ふるを
膠と加ふる或は黄土と加ふるを

右個合しと用り亦乃れ此を
淡粉粉をあり

一或は墨とありと色と法を
是は是のそと用りありは外

外乃傳るものと云ふ也

多何と云す凡そ右凡そ同也
す産後乃粉多ハ器名にあり
是も又とくくある事あり
是も又とくくある事あり

愚草

和漢平文三百六十之巻師

弄玉集等所全書小にあり

作次とく本物と云ふは實物

古今名師乃傳りて云す

蓋し中文字ハ白小形ハ多

ハ後小形ハ白小形ハ多

世小形ハ白小形ハ多

別小形ハ白小形ハ多

カアと云傳ありんは

カアと云傳ありんは

傳書と云ふは時又と云く
平徳と知らんを欲す豊人
公又僅儀と云ふ宣あしうん
やそれ梅實乃たふ心たむけ
りてうく時飛とらるる地也
く守故ふ古師乃名下不特
年と記す徳多のれ持聖氏
永納に輯録と云ふ何全徳
とらに林氏田川氏乃席張
物と云ふうくひ又談と云
繁に物と云ふ一本傳小ゆりて
有略一不魚乃露管と云
明と云ふれと訓蒙小やうけり
洋取乃るささくさあくと
大訓訳とらるる怨と云く

西負滅失也と云ふと欲せり
平教のこれ先魁博志乃撰
集とらるる流布と云ふに救案
雖とらるる後流竟絶と云く
也ふんは海と云ふと接と云
と膠志と云ふ本の通傳合
平教と云ふと事象と云ふ
時飛踏と云ふと海と云
しと云ふと欲とらるる
元祿癸酉夏冬浪急旅泊
菊本幸甫敬賀保謹書

